



2022年4月

概要	・ ・ ・	2
会長・副会長挨拶	・ ・ ・	2
歴代会長・副会長一覧	・ ・ ・	4
役員・会員名簿	・ ・ ・	5
会員異動一覧	・ ・ ・	8
AJMC組織図	・ ・ ・	10
委員長・WG座長一覧	・ ・ ・	11
活動報告	・ ・ ・	12
令和3年度 委員会・WG等活動報告一覧	・ ・ ・	12
令和3年度 4月理事会	・ ・ ・	16
令和3年度 5月定例社員総会	・ ・ ・	19
理事会・専門委員長会合同会議	・ ・ ・	22
令和3年度 11月理事会	・ ・ ・	24
委員会・WG活動内容	・ ・ ・	26
要望・声明・提言等	・ ・ ・	51
懇談会・意見交換会・講演会等	・ ・ ・	65
文部科学省 医学教育等関係業務功労者表彰式	・ ・ ・	76
プレスリリース	・ ・ ・	78
会員だより	・ ・ ・	80
Vol. 35 東京医科歯科大学	・ ・ ・	80
Vol. 36 日本医科大学	・ ・ ・	82
Vol. 37 岡山大学	・ ・ ・	84
Vol. 38 川崎医科大学	・ ・ ・	86
事務局だより	・ ・ ・	88



会長挨拶

藤田医科大学 学長・統括病院長

湯澤 由紀夫

全国医学部長病院長会議（AJMC）は、現役の医学部長及び病院長で組織される唯一の組織として、ますます果たすべき役割が増してきております。

近年は、大きく次の3点の課題（新型コロナウイルス感染症対策・医師の働き方改革・共用試験公的化）を中心に積極的に活動してきております。

まず、新型コロナウイルス感染症対策であります。この間AJMCとして4回の独自の提言を行いました。重症例は全身に及ぶ多臓器疾患であり複数の診療科による集学的治療が必要であり、大学病院を中心とした重症患者受入れ及び病院間の連携が必要との提言を行いました。実際に大学病院は治療の最後の砦として大きな貢献を果たしています。定期的なアンケート調査により病院経営に与える影響も含めた最新のデータを継続的に発信し、厚労省・自治体からの財政的支援の根拠データとなっています。

昨年は、医師の働き方改革・共用試験公的化に関する医療法及び医師法一部改正が行われ、法に則った運用が求められています。

医師の働き方改革は、昨年から4回のAJMC主催のセミナーを行い、2024年開始に向けて急速に各大学病院の取組が進んでいますが、実施に向けてまだまだ多くの課題が残っています。大学病院は教育・研究・臨床をモザイク的に行わざるを得ず、自己研鑽を含め大学病院としての法的位置づけも必要となってきました。今後は、大学病院が、国際的な競争力を維持しながら、医師養成機関として、また研究機関として、発展していくことができる独自の「医師の働き方」のモデルをAJMCとして作り上げる必要性を痛感しております。

平成30年からStudent Doctorの医行為も含めた法的整備の必要性をAJMCが提言してきており、その結果、共用試験公的化が医師法に定められました。今後2023年度からの実施に向けて、一つ一つ課題を解決していく必要があります。

また、国際標準の医学教育質保証は、AJMCの委員会から日本医学教育評価機構（JACME）に引き継がれ、大きく発展しています。

AMED・日本専門医機構等にもAJMCから委員を派遣しており、研究活性化・医師偏在・地域医療構想など多方面にわたり、AJMCとして実現可能な提言を継続していく必要があります。

社会の多様化・国際化に対応して、課題解決できる医療人を育成するために、AJMCに課せられた役割はますます多くなってきております。

引き続き、会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



副会長挨拶

秋田大学 理事

尾野 恭一

令和3年5月より副会長に就任いたしました秋田大学の尾野です。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大状況下において、医学教育、診療、研究の推進、働き方改革への対応、専門医制度と地域医療への対応等医学部を取り巻く環境は厳しく、また大きな問題に直面しております。本会議の果たす役割は極めて大きく、この時期に副会長として務めさせていただくことの責任を痛感しております。

令和2年5月に山下前会長から湯澤会長に引き継がれ、湯澤会長のリーダーシップの下、医学教育や医療などの諸問題の解決のために積極的に議論し、意見をまとめ、我が国の医学や医療の更なる発展に尽くすための様々な活動が始まっております。会員の皆様のご協力をいただき、湯澤会長をお支えしつつ、全国82の国公私立大学の医科大学は医学部、そして附属病院が一体となって、課題解決に取り組めるよう、誠心誠意努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

概要

歴代会長・副会長一覧

AJMC 広報 NO.74

歴代会長・副会長一覧

	任 期	会 長		副 会 長	
		大 学	氏 名	大 学	氏 名
昭和	42.10 ~ 43.5	東京大学	豊川 行平	東京大学	上田 英雄
	43.5 ~ 44.5	順天堂大学	懸田 克躬	慶應義塾大学	牛場 大蔵
	44.5 ~ 45.5	東京医科歯科大学	落合 京一郎 (~45.4)	東京医科大学	小嶋 理一
	45.5 ~ 46.5	順天堂大学	懸田 克躬	千葉大学	相磯 和嘉
	46.5 ~ 47.5	千葉大学	松本 胖	日本医科大学	齊藤 湊
	47.5 ~ 48.5	日本大学	永澤 滋	東京大学	中井 準之助
	48.5 ~ 49.5	東京大学	高安 久雄	東京慈恵会医科大学	南 武
	49.5 ~ 50.5	慶應義塾大学	三辺 謙	千葉大学	香月 秀雄
	50.5 ~ 51.5	千葉大学	香月 秀雄	日本大学	萩原 忠文
	51.5 ~ 52.5	東京慈恵会医科大学	名取 礼二	東京医科歯科大学	島蘭 安雄
	52.5 ~ 52.7	東京医科歯科大学	吉田 久	東京女子医科大学	千谷 七郎
	52.10 ~ 53.5	東京大学	吉川 政己	東京女子医科大学	千谷 七郎
	53.5 ~ 54.5	日本大学	小林 茂三郎	群馬大学	志田 圭三
	54.5 ~ 55.5	東京医科歯科大学	加納 六郎	日本医科大学	伊藤 忠厚
	55.5 ~ 56.5	昭和大学	上條 一也	横浜市立大学	福嶋 幸吉
	56.5 ~ 57.5	千葉大学	井出 源四郎	自治医科大学	松本 清一
	57.5 ~ 58.5	慶應義塾大学	倉田 正一	東京医科歯科大学	渡辺 勲
	58.5 ~ 59.5	東京大学	三島 濟一	日本医科大学	伊藤 忠厚
	59.5 ~ 60.5	東京女子医科大学	吉岡 守正	群馬大学	泉 雄勝
	60.5 ~ 61.5	筑波大学	阿南 功一	昭和大学	石井 淳一
平成	61.5 ~ 62.5	東京慈恵会医科大学	阿部 正和	横浜市立大学	横井 晋
	62.5 ~ 63.5	東京医科歯科大学	中谷 林太郎	東京女子医科大学	喜多村 孝一
	63.5 ~ 元.5	慶應義塾大学	植村 恭夫	千葉大学	高見沢 裕吉
	元.5 ~ 2.5	千葉大学	村山 智	東京慈恵会医科大学	小林 建一
	2.5 ~ 3.5	東京医科大学	三輪 哲郎	信州大学	寺山 和雄
	3.5 ~ 4.5	東京大学	遠藤 實	北里大学	坂上 正道
	4.5 ~ 5.5	日本医科大学	菊地 吾郎	東京医科歯科大学	鈴木 章夫
	5.5 ~ 6.5	東京医科歯科大学	鈴木 章夫	聖マリアンナ医科大学	須階 二郎
	6.5 ~ 7.5	北里大学	佐藤 登志郎	群馬大学	宇田川 英一
	7.5 ~ 8.5	千葉大学	高橋 英世	東京慈恵会医科大学	酒井 紀
	8.5 ~ 9.5	日本大学	瀬在 幸安	東京医科歯科大学	大島 博幸
	9.5 ~ 10.5	東京大学	石川 隆俊	昭和大学	藤巻 悦夫
	10.5 ~ 11.5	慶應義塾大学	猿田 享男	信州大学	小宮山 淳章
	11.5 ~ 12.5	東京医科歯科大学	佐藤 達夫	北里大学	柿田 章
	12.5 ~ 13.5	聖マリアンナ医科大学	村山 正博	東京大学	武谷 雄二
	13.5 ~ 14.5	千葉大学	福田 康一郎	東京慈恵会医科大学	大石 幸彦
	14.5 ~ 14.7.16	東京女子医科大学	溝口 秀昭	東京医科歯科大学	西岡 清
	14.7.17 ~ 14.11.14	東京医科歯科大学	西岡清(代理)	東京医科歯科大学	西岡 清
	14.11.15 ~ 15.5	東京医科歯科大学	西岡 清	東京慈恵会医科大学	大石 幸彦
令和	15.5 ~ 16.5	自治医科大学	布施 勝生	東京大学	廣川 信隆
	16.5 ~ 18.5	北里大学	吉村 博邦	新潟大学	下條 文武
	18.5 ~ 20.5	信州大学	大橋 俊夫	日本大学	澤 充
	20.5 ~ 22.5	岩手医科大学	小川 彰	千葉大学	河野 陽一
	22.5 ~ 23.7	横浜市立大学	黒岩 義之	東京慈恵会医科大学	森山 寛
	23.8 ~ 24.5	東京慈恵会医科大学	森山 寛	千葉大学	中谷 晴昭
	24.5 ~ 26.5	埼玉医科大学	別所 正美	和歌山県立医科大学	岡村 吉隆
	26.5 ~ 27.5	大阪市立大学	荒川 哲男	杏林大学	甲能 直幸
	27.5 ~ 28.5	大阪市立大学	荒川 哲男	東京邦大学	小原 明也
	28.5 ~ 30.5	順天堂大学	新井 一	京都大学	稲垣 暢
	30.5 ~ 元.5	山形大学	山下 英俊	愛知医科大学	羽生田 正行
	元.5 ~ 2.5	山形大学	山下 英俊	愛知医科大学	藤原 祥裕
	2.5 ~ 3.4	藤田医科大学	湯澤 由紀夫	熊本大学	富澤 仁
	3.4.30 ~ 4.5	藤田医科大学	湯澤 由紀夫	秋田大学	尾野 恭一

(役員任期 令和2.5.29～令和4.5定例社員総会まで)

会長・副会長

令和4.4.1現在

会 長	湯澤 由紀夫	藤田医科大学	学長・統括病院長
副会長	尾野 恭一	秋田大学	理事

理 事

令和4.4.1現在

尾野 恭一	秋田大学	前医学部長	平田 哲	旭川医科大学病院	前病院長事務取扱
竹石 恭知	福島県立医科大学	病 院 長	小笠原邦昭	岩手医科大学附属病院	病 院 長
金井 隆典	慶應義塾大学	医学部長	篠塚 望	埼玉医科大学病院	病 院 長
渡邊 卓	杏林大学	学 長	瀬戸 泰之	東京大学医学部附属病院	病 院 長
平田 修司	山梨大学	医学部長	内田 信一	東京医科歯科大学病院	病 院 長
染矢 俊幸	新潟大学	医学部長	山本 謙吾	東京医科大学病院	病 院 長
中山 淳	信州大学	医学部長	渡辺 雅彦	東海大学医学部付属病院	病 院 長
高橋 智	名古屋市立大学	医学部長	松山 幸弘	浜松医科大学医学部附属病院	病 院 長
須藤 啓広	三重大学	前医学部長	湯澤由紀夫	藤田医科大学病院	統括病院長
岩井 一宏	京都大学	医学部長	平田 一人	大阪公立大学医学部附属病院	前病院長
友田 幸一	関西医科大学	学 長	南 敏明	大阪医科薬科大学病院	病 院 長
福永 仁夫	川崎医科大学	学 長	前田 嘉信	岡山大学病院	病 院 長
三木 崇範	香川大学	医学部長	杉山 隆	愛媛大学医学部附属病院	病 院 長
小玉 正太	福岡大学	医学部長	中尾 一彦	長崎大学病院	病 院 長
山縣 和也	熊本大学	医学部長	大屋 祐輔	琉球大学病院	病 院 長

監 事

令和4.4.1現在

監 事	別所 正美	埼玉医科大学	学長
	稲垣 暢也	京都大学	教授

顧 問

令和4.4.1現在

顧 問	新井 一	順天堂大学	学長
	山下 英俊	山形大学	名誉教授

相 談 役

令和4.4.1現在

相談役	富澤 一仁	熊本大学	理事・副学長
-----	-------	------	--------

概要

役員・会員名簿

AJMC 広報 NO.74

会員名簿

国立43、公立8、私立31、計82大学

令和4.4.1現在

地区	大学	区分	医学部長	役職等	附属病院長	役職等
			(医科大学長)			
東北・北海道地区 10	北海道大学	国立	山崎 次豪	世話校	渥美 達也	理事
	札幌医科大学	国立	斎藤 祐司		土橋 和博	
	旭川医科大学	国立	西川 祐和		古川 山	
	弘前医科大学	国立	佐々木 真伸		大小 笠原	
	岩手医科大学	国立	八重樫 友義		富永 藤	
	東北医科大学	国立	大野 義敬		佐南 谷	
	秋田大学	国立	上野 森		佐南 石	
	山形大学	国立	藤 敬		竹 恭	
	福島県立医科大学	公立				
		公立				
関東地区 28	筑波大学	国立	田中 誠三	理事	原川 晃介	理事
	自治医科大学	国立	永井 良三		川合 正繁	
	獨協医科大学	国立	種市 湊		麻生 藤	
	防衛医科大学	国立	小宮 成		齋藤 塚	
	埼玉医科大学	国立	森ノ 茂久		塩谷 手	
	千葉大学	国立	松原 久裕		篠横 崎	
	国際医療福祉大学	国立	河上 繁修		宮瀬 戸	
	東京大学	国立	岡部 二作		瀬内 田	
	東京医科歯科大学	国立	木下 浩昭		高田 伸一	
	日本医科大学	私立	弦間 俊介		汲田 純	
	日本医科大学	私立	盛田 由起		瓜田 謙	
	東京医科大学	私立	林石 直千		山本 橋	
	東京女子医科大学	私立	松金 井		板橋 島	
	東京慈恵会医科大学	私立	小風 信		小松 博	
	慶應義塾大学	私立	服部 雅		相高 晴	
	昭和大学	私立	平村 康		近坂 哲	
	順天堂大学	私立	川内 博		坂後 晶	
	杏林大学	私立	寺利 正		高坪 毅	
	横浜市立大学	公立	浅川 矢		大渡 榎	
	北里大学	国立	森平 染		高富 真	
	聖マリアンナ医科大学	国立	中山 淳		大田 善	
	東京大学	国立				
	山梨大学	国立				
	新潟大学	国立				
		国立				
		国立				
		国立				
		国立				
		国立				
		国立				
		国立				

概要

[illegible]

会員異動一覧

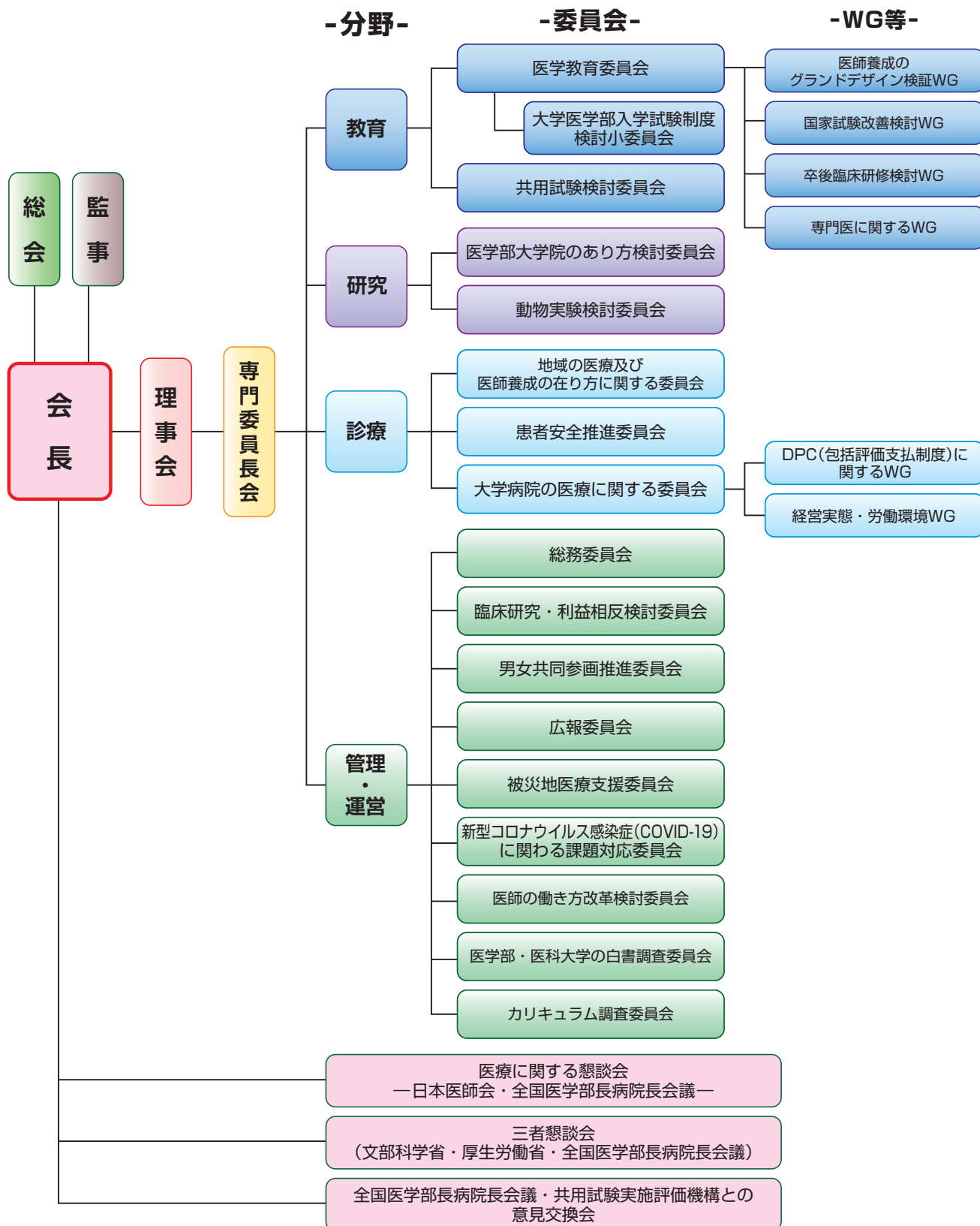
令和3.4.2～令和4.4.1

医学部長（医科大学長・医学群長・医学類長・学校長）			
大学名	新	旧	異動年月日
旭川医科大学	ニシ 西 川 ユウ 祐 ジ	松 野 丈 夫 (学長職務代理)	4.4.1
東北医科薬科大学	オオ 大 ノ 野 イサオ 勲	福 田 寛	4.4.1
秋田大学	ハ 羽 プチ 湊 トモ 友 ノリ 則	尾 野 恭 一	4.4.1
福島県立医科大学	フジ 藤 モリ 森 ケイ 敬 ヤ 也	竹 石 恭 知	4.4.1
獨協医科大学	タネ 種 イチ 市 ヒロシ 洋	吉 田 謙一郎	4.4.1
埼玉医科大学	モリ 森 シゲ 茂 ヒサ 久	村 越 隆 之	4.4.1
東京医科歯科大学	トウ 東 ダ シュウ 田 修 ジ 二	北 川 昌 伸	4.4.1
日本大学	キノ 木 シタ 下 コウ 浩 サク 作	後藤田 卓 志	4.4.1
慶應義塾大学	カナ 金 イ タカ 井 隆 ノリ 典	天 谷 雅 行	3.8.1
杏林大学	ヒラ 平 カタ 形 アキ 明 ト 人	渡 邊 卓	4.4.1
金沢医科大学	ミヤ 宮 ザワ 澤 カツ 克 ヒト 人	川 原 範 夫	3.9.1
名古屋大学	キ 木 ムラ 村 ヒロシ 宏	門 松 健 治	4.4.1
愛知医科大学	カサ 笠 イ ケン 井 謙 ジ 次	若 槻 明 彦	4.4.1
三重大学	ホリ 堀 ヒロ 浩 キ 樹	湊 藤 啓 広	4.4.1
兵庫医科大学	ツジ 辻 ムラ 村 トオル 亨	野 口 光 一	4.4.1
徳島大学	ニシ 西 オカ 岡 ヤス 安 ヒコ 彦	赤 池 雅 史	4.4.1
香川大学	ミ 三 キ タカ 木 崇 ノリ 範	上 田 夏 生	3.10.1
高知大学	フリ 降 ハタ 幡 ムツ 睦 オ 夫	菅 沼 成 文	4.4.1
大分大学	スギ 杉 オ ケン 尾 賢 ジ 二	山 岡 吉 生	3.10.1
宮崎大学	ヒシ 菱 カワ 川 ヨシ 善 タカ 隆	片 岡 寛 章	3.10.1

附属病院長			
病院名	新	旧	異動年月日
北海道大学病院	アツ 渥 美 達 ヤ 也	秋 田 弘 俊	4.4.1
旭川医科大学病院	フル 古 川 ヒロ 博 ユキ 之	平 田 哲 (事務取扱)	4.4.1
東北医科薬科大学病院	サ 佐 トウ 藤 ケン 賢 イチ 一	近 藤 丘	4.4.1
福島県立医科大学附属病院	タケ 竹 イシ 石 ヤス 恭 チカ 知	鈴 木 弘 行	4.4.1
自治医科大学附属病院	カワ 川 イ 合 ケン 謙 スケ 介	佐 田 尚 宏	4.4.1
獨協医科大学病院	アソ 麻 ウ 生 ヨシ 好 マサ 正	窪 田 敬 一	4.4.1
東京医科大学病院	ヤマ 山 モト 本 ケン 謙 ゴ 吾	三 木 保	3.9.1
東京女子医科大学病院	イタ 板 バシ 橋 ミチ 道 オ 朗	田 邊 一 成	4.4.1
東京慈恵会医科大学附属病院	コ 小 ジマ 島 ヒロ 博 ミ 己	井 田 博 幸	4.4.1
慶應義塾大学病院	マツ 松 モト 本 モリ 守 オ 雄	北 川 雄 光	3.5.28
杏林大学医学部付属病院	コン 近 ドウ 藤 ハル 晴 ヒコ 彦	市 村 正 一	4.4.1
北里大学病院	タカ 高 ソウ 相 マサ 晶 シ 士	岩 村 正 嗣	3.7.1
岐阜大学医学部附属病院	アキ 秋 ヤマ 山 ハル 治 ヒコ 彦	吉 田 和 弘	4.4.1
三重大学医学部附属病院	イケ 池 ダ 田 トモ 智 アキ 明	伊佐地 秀 司	4.4.1
大阪大学医学部附属病院	タケ 竹 ハラ 原 テツ 徹 オ 郎	土 岐 祐一郎	4.4.1
大阪公立大学医学部附属病院	ナカ 中 ムラ 村 ヒロ 博 アキ 亮 (病院長職務代理者)	平 田 一 人	4.4.1
広島大学病院	ク 工 ドウ 藤 ヨシ 美 キ 樹	木 内 良 明	4.4.1
香川大学医学部附属病院	カド 門 ワキ 脇 ノリ 則 ミツ 光	田 宮 隆	3.10.1
高知大学医学部附属病院	ハナ 花 ザキ 崎 カズ 和 ヒロ 弘	執 印 太 郎	4.4.1
九州大学病院	ナカ 中 ムラ 村 マサ 雅 フミ 史	赤 司 浩 一	4.4.1
佐賀大学医学部附属病院	ノ 野 グチ 口 ミツル 満	山 下 秀 一	4.4.1
宮崎大学医学部附属病院	チヨウ 帖 サ 佐 エツ 悦 オ 男	鯨 島 浩	3.10.1

AJMC組織図

令和3.5.28現在



委員長・WG座長一覧

令和4.3.31現在

分野	専門委員会・ワーキンググループ (WG)	委員長・座長	大学名等
	専門委員長会	瀬戸 泰之 委員長	東京大学
教育	医学教育委員会	齊藤 延人 委員長	東京大学
	大学医学部入学試験制度検討小委員会	渡邊 卓 委員長	杏林大学
	医師養成のグランドデザイン検証 WG	竹石 恭知 座長	福島県立医科大学
	国家試験改善検討 WG	岩間 亨 座長	岐阜大学
	卒後臨床研修検討 WG	汲田伸一郎 座長	日本医科大学
	専門医に関する WG	古川 博之 座長	旭川医科大学
	共用試験検討委員会	佐藤 慎哉 委員長	山形大学
研究	医学部大学院のあり方検討委員会	北川 昌伸 委員長	東京医科歯科大学
	動物実験検討委員会	門松 健治 委員長	名古屋大学
診療	地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会	大屋 祐輔 委員長	琉球大学
	患者安全推進委員会	坂本 哲也 委員長	帝京大学
	大学病院の医療に関する委員会	横手幸太郎 委員長	千葉大学
	DPC (包括評価支払制度) に関する WG	林 篤志 座長	富山大学
	経営実態・労働環境 WG	海野 信也 座長	北里大学
管理・運営	総務委員会	八重樫伸生 委員長	東北大学
	臨床研究・利益相反検討委員会	苛原 稔 委員長	徳島大学
	男女共同参画推進委員会	唐澤久美子 委員長	東京女子医科大学
	広報委員会	金井 隆典 委員長	慶應義塾大学
	被災地医療支援委員会	尾野 恭一 委員長	秋田大学
	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関わる課題対応委員会	瀬戸 泰之 委員長	東京大学
	医師の働き方改革検討委員会	横手幸太郎 委員長	千葉大学
	医学部・医科大学の白書調査委員会	道川 誠 委員長	名古屋市立大学
	カリキュラム調査委員会	伊野 美幸 委員長	聖マリアンナ医科大学
医療に関する懇談会－日本医師会・全国医学部長病院長会議－		湯澤由紀夫 会長	藤田医科大学
三者懇談会 (文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議)		湯澤由紀夫 会長	藤田医科大学
全国医学部長病院長会議・共用試験実施評価機構との意見交換会		湯澤由紀夫 会長	藤田医科大学

活動報告

令和3年度 委員会・WG等活動報告一覧

AJMC 広報 NO.74

令和3年度 委員会・WG等活動報告一覧

※本年度は、原則web会議による開催

令和3.4.1～令和4.3.31

	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
令和3年 4月	4月2日	プレスリリース (新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査(12月度)、通常診療への影響調査)		
	4月8日	第1回医療に関する懇談会 －日本医師会・全国医学部長病院長会議－	日本医師会	日本医師会館 (web併用)
	4月15日	近畿地区部会		関西医科大学
	4月16日	中国・四国地区部会		岡山大学
	4月16日	九州地区部会		琉球大学
	4月19日	関東地区部会		埼玉医科大学
	4月20日	第26回三者懇談会		
	4月26日	東海・北陸地区部会		福井大学
	4月28日	東北・北海道地区部会		旭川医科大学
	4月28日	プレスリリース (新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査(1月度)、緊急包括支援交付金等受給状況(2月末))		
	4月30日	理事会		
令和3年 5月	5月	「わが国の大学医学部・医科大学 白書2020」発刊		
	5月	「広報 NO.73」発刊		
	5月6日	声明 「新型コロナウイルス感染症第4波－医療を崩壊させないために－」公表		
	5月7日	第2回医師の働き方改革セミナー		
	5月19日	第1回医学教育委員会		
	5月28日	定例社員総会		

	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
令和3年 6月	6月1日	プレスリリース (新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査(2月度)、緊急包括支援交付金等受給状況(3月末))		
	6月14日	第1回医師の働き方改革検討委員会		
	6月15日	医師養成の過程から医師偏在是正を求める議員連盟第10回総会	自民党	参議院会館
	6月16日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第3グループ)		
	6月21日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第2グループ)		
	6月21日	第1回臨床研究・利益相反検討委員会		
	6月22日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第4グループ) 1回目		
	6月22日	プレスリリース (新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査(3月度))		
	6月23日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第1グループ)		
	6月25日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第4グループ) 2回目		
	6月25日	第1回男女共同参画推進委員会		
	6月29日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(全体会議)		
令和3年 7月	7月	「令和2年度 全国大学附属病院研修医に関する実態調査報告」発刊		
	7月1日	大学病院の医療に関する委員会・DPCに関するWG合同委員会		
	7月7日	第2回医師の働き方改革検討委員会		
	7月27日	第3回医師の働き方改革セミナー		

活動報告

令和3年度 委員会・WG等活動報告一覧

AJMC 広報 NO.74

	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
令和3年 8月	8月	「医師国家試験に関するアンケート調査結果報告」発刊		
	8月3日	理事会・専門委員長会合同会議		
	8月6日	第1回共用試験検討委員会		
	8月10日	声明「新型コロナウイルス感染症第5波が大学病院診療に与える影響」公表		
	8月16日	「令和4年度診療報酬改定に関する重点要望事項」提出		
	8月17日	第27回三者懇談会		
	8月23日	第1回患者安全推進委員会		
令和3年 9月	9月14日	第1回医学部大学院のあり方検討委員会		
令和3年 10月	10月4日	第1回経営実態・労働環境WG		
	10月4日	「医師国家試験に関する要望書」提出		
	10月8日	第3回医師の働き方改革検討委員会		
	10月14日	第2回医療に関する懇談会 －日本医師会・全国医学部長病院長会議－	日本医師会	日本医師会館 (web併用)
令和3年 11月	11月16日	プレスリリース (新型コロナウイルス感染症が大学病院経営に与えた影響)		
	11月19日	第1回総務委員会		
	11月23日	第1回地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会		
	11月26日	理事会		
令和3年 12月	12月1日	第2回地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会		
	12月7日	第1回国家試験改善検討WG		
	12月10日	第4回医師の働き方改革検討委員会		
	12月22日	第1回新型コロナウイルス感染症に関わる課題対応委員会		
令和4年 1月	1月	「令和3年度 大学病院経営実態調査」発刊		
	1月7日	第28回三者懇談会		
	1月19日	第2回医学教育委員会		

令和4年 2月	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
	2月8日	第4回医師の働き方改革セミナー		
	2月8日	第2回臨床研究・利益相反検討委員会		
	2月14日	「共用試験公的化の実施に関する要望」提出		
	2月17日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（第4グループ）		
	2月21日	第3回医学教育委員会		
	2月22日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（第3グループ）		
	2月24日	社会保障制度調査会医療委員会 医師の働き方改革の施行に関するPT	自民党	自民党本部
	2月24日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（第2グループ）		
	2月25日	専門医に関するWG		
	2月28日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（第1グループ）		

令和4年 3月	3月3日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（全体会議）		
	3月5日	地域枠制度についての意見交換会		
	3月15日	第2回患者安全推進委員会		
	3月18日	診療報酬ならびにDPC（包括評価支払制度）に関する講演会		
	3月29日	第2回男女共同参画推進委員会		
	3月31日	「我が国で求められる医師養成のためのグランドデザインへの提言－卒前・卒後のシームレスな医学教育を目指して－」 発刊		
	3月31日	「令和3年度男女共同参画に対する意識調査」 報告書 発刊		

※4月理事会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 令和3年度 4月 理事会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和3年4月30日(金) 13:00～16:30

開催方法：web会議 (Zoom)

開催場所：全国医学部長病院長会議事務局 会議室

【開 会】

1. 会 長 報 告

2. 確 認 事 項

令和2年11月理事会議事録の確認について

確認資料1：令和2年度11月理事会議事録

3. 審 議 事 項

第1号議案：理事候補者の推薦について

審議資料1：理事交代一覧

第2号議案：副会長の選任について

審議資料2：副会長の選任について

第3号議案：相談役の選任について

審議資料3：相談役の選任について

第4号議案：専門委員会委員長、WG座長の交代について

審議資料4：専門委員会委員長、WG座長の交代について

第5号議案：専門委員会、WGの改組について

審議資料5：専門委員会、WGの改組について

第6号議案：2020年度事業報告

審議資料6：令和2年度事業報告（案）

第7号議案：2020年度収支決算案

審議資料7：令和2年度収支決算（案）

第8号議案：2021年度事業計画案

審議資料8：令和3年度事業計画書（案）

第9号議案：2021年度収支予算案

審議資料9：令和3年度収支予算書（案）

第10号議案：会費規程第2条の取扱いについて

審議資料10：会費規程第2条の取扱いについて

4. 報 告 事 項

各専門委員会委員長・各ワーキンググループ座長報告

(1) 医学教育委員会（齊藤委員長）

報告資料1：第3回 各大学における新型コロナウイルスへの対応に関するアンケート
集計結果

(2) 大学医学部入学試験制度検討小委員会（渡邊委員長）

報告資料2：大学医学部入学試験制度検討小委員会議事要旨

(3) 国家試験改善検討WG（岩間座長）

（口頭報告）

(4) 卒後臨床研修検討WG（汲田座長）

（口頭報告）

(5) 専門医に関するWG（古川座長）

報告資料3：専門医に関するWG会議の要約

(6) 共用試験検討委員会（河野委員長）

報告資料4：共用試験公的化の疑問点および懸念事項

(7) 医学部大学院のあり方検討委員会（北川委員長）

報告資料5：医学部大学院のあり方検討委員会議事要旨

(8) 患者安全推進委員会（坂本委員長）

（口頭報告）

(9) 経営実態・労働環境WG（海野座長）

（口頭報告）

(10) 臨床系教員の働き方改革WG（山本座長）

報告資料6：参議院厚生労働委員会説明資料・医師の働き方改革に関する課題と
要望（案）

(11) 臨床研究・利益相反検討委員会（苛原委員長）

報告資料7：臨床研究・利益相反委員会事業報告

(12) 広報委員会（天谷委員長）

報告資料8：ホームページデザイン案

(13) 新型コロナウイルス（COVID-19）に関わる課題対応委員会（瀬戸委員長）

報告資料9：新型コロナウイルス感染症に関する緊急アンケート調査結果

(14) 医学部・医科大学の白書調査WG（道川座長）

報告資料10：医学部・医学科学生アンケート結果

(15) カリキュラム調査WG（伊野座長）

報告資料11：カリキュラム調査ワーキンググループ 報告書

(16) 地域における医師養成の在り方に関する委員会（大屋委員長）

報告資料12：2020年度活動報告

(17) 男女共同参画推進委員会（唐沢委員長）

報告資料13：男女共同参画意識調査結果（ダイジェスト版）

5. そ の 他 報 告

(1) 三者懇談会—文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議—

その他報告資料1：三者懇談会 次第

(2) 医療に関する懇談会—日本医師会・全国医学部長病院長会議—

その他報告資料2：医療に関する懇談会 次第

6. そ の 他

その他報告資料3：理事会及び総会の開催日程

【 閉 会 】

※5月定例社員総会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 令和3年度 5月 定例社員総会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和3年5月28日(金) 12:30～17:00

開催方法：web会議（Zoom）

開催場所：全国医学部長病院長会議事務局 会議室

【開 会】

《12:30～》

1. 会 長 報 告（挨拶・資料確認・報告）

・三者懇談会 ―文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議―

会長報告資料1：第24回～第26回 三者懇談会 次第

・医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議―

会長報告資料2：医療に関する懇談会 次第

・外部会議等

会長報告資料3：外部会議委員等一覧

2. 確 認 事 項

令和2(2020)年定例社員総会議事要旨の確認について

確認資料1：令和2年度 定例社員総会議事録

3. 審 議 事 項

第1号議案：理事の選任について

審議資料1：理事候補一覧表

第2号議案：専門委員会・WGの改組、委員長座長の交代について

審議資料2：専門委員会・WGの改組、委員長座長の交代について

第3号議案：令和2年度事業報告について

審議資料3：令和2年度事業報告（案）

第4号議案：令和2年度収支決算案について

審議資料4：令和2年度収支決算（案）

第5号議案：令和3年度事業計画案について

審議資料5：令和3年度事業計画書（案）

第6号議案：令和3年度収支予算案について

審議資料6：令和3年度収支予算書（案）

第7号議案：会費規程第2条の取扱いについて

審議資料7：会費規程第2条の取扱いについて

《13:00～》

4. 講演会

- (1) 日本医師会 中川 俊男 会長

「最近の医療情勢とその課題—新型コロナウイルス感染症対策に向けて—」

講演資料1：最近の医療情勢とその課題—新型コロナウイルス感染症対策に向けて—

- (2) 文部科学省 伊藤 史恵 医学教育課長

「医学教育の現状と課題」

講演資料2：医学教育の現状と課題

- (3) 厚生労働省 山本 英紀 医事課長

「医師の働き方改革と医師需給について」

講演資料3：医師の働き方改革と医師需給について

《14:00～》

5. 報告事項（各専門委員会委員長・各WG座長報告）

各専門委員会委員長・各ワーキンググループ座長報告

- (1) 医学教育委員会（齊藤委員長）

報告資料1：第3回 各大学における新型コロナウイルスへの対応に関するアンケート
集計結果

- (2) 大学医学部入学試験制度検討小委員会（渡邊委員長）

報告資料2：大学医学部入学試験制度検討小委員会議事要旨

- (3) 国家試験改善検討WG（岩間座長）

（口頭報告）

- (4) 卒後臨床研修検討WG（汲田座長）

報告資料3：卒後臨床研修検討WG議事要旨

- (5) 専門医に関するWG（古川座長）

報告資料4：専門医に関するWG会議の要約

- (6) 共用試験検討委員会（佐藤委員長）

報告資料5：共用試験公的化の疑問点および懸念事項

- (7) 医学部大学院のあり方検討委員会（北川委員長）

報告資料6：医学部大学院のあり方検討委員会議事要旨

- (8) DPC（包括評価支払制度）に関するWG（林座長）

報告資料7：医療機関別係数（令和2年4月1日時点）について

- (9) 地域医療及び医師養成の在り方に関する委員会（大屋委員長）

報告資料8：2020年度活動報告

- (10) 患者安全推進委員会（坂本委員長）

（口頭報告）

- (11) 経営実態・労働環境WG（海野座長）

（口頭報告）

(12) 臨床研究・利益相反検討委員会（苛原委員長）

報告資料9：臨床研究・利益相反委員会事業報告、FIRM透明性ガイドライン

(13) 男女共同参画推進委員会（唐澤委員長）

報告資料10：男女共同参画意識調査結果（ダイジェスト版）

(14) 広報委員会（天谷委員長）

報告資料11：ホームページデザイン案

(15) 医学部・医科大学の白書調査委員会（道川委員長）

（口頭報告）

(16) カリキュラム調査委員会（伊野委員長）

報告資料12：カリキュラム調査ワーキンググループ 報告書

(17) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関わる課題対応委員会（瀬戸委員長）

報告資料13：新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査結果等について
東北・北海道地区（札幌医科大学 齋藤医学部長）

提案議題資料1：臨床研修病院等の見学や面接、試験等について

九州地区（鹿児島大学 橋口医学部長）

提案議題資料2：新型コロナウイルス感染症感染拡大時の遠隔臨床実習について

(18) 医師の働き方改革検討委員会（横手委員長）

報告資料14：医師の働き方改革検討委員会報告

関東地区（埼玉医科大学 篠塚病院長）

提案議題資料3：大学病院の医師の裁量労働制について

近畿地区（関西医科大学 友田学長）

提案議題資料4：医師の働き方改革に関する兼業先の時間外労働を含めた労働時間
管理について

6. そ の 他 報 告

(1) 厚生労働省健康局がん・疾病対策課（古元課長）

その他報告資料1：小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業
について

(2) 厚生労働省医政局経済課医療機器政策室（堀岡室長）

その他報告資料2：新型コロナウイルス感染症患者の治療に必要な人工呼吸器無償
譲渡について

7. そ の 他

その他報告資料3：理事会及び総会の開催日程

【 閉 会 】

※理事会・専門委員長会合同会議議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 理事会・専門委員長会合同会議 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和3年8月3日(火) 16:30～18:00

開催方法：web会議（Zoom）

開催場所：全国医学部長病院長会議事務局 会議室

【開 会】

1. 会 長 挨 拶

2. 確 認 事 項

令和3年4月理事会議事録の確認について

確認資料1：令和3年4月理事会議事録

3. 審 議 事 項

第1号議案：理事候補者の推薦について

審議資料1：理事交代一覧

第2号議案：専門委員会委員長の交代について

審議資料2：専門委員会委員長の交代について

第3号議案：令和4年度診療報酬改定に関する要望事項について

審議資料3：令和4年度診療報酬改定に関する重点要望事項（案）

第4号議案：医師国家試験に関する要望書について

審議資料4：医師国家試験に関する要望書（案）

4. 報 告 事 項

専門委員会委員長・ワーキンググループ座長報告

報告資料1：2021年度 活動計画書

- (1) 総務委員会（八重樫委員長）
- (2) 医学教育委員会（齊藤委員長）
- (3) 大学医学部入学試験制度検討小委員会（渡邊委員長） ※欠席のため議長より報告
- (4) 医師養成のグランドデザイン検証WG（竹石座長）
- (5) 国家試験改善検討WG（岩間座長）
- (6) 卒後臨床研修検討WG（汲田座長）
- (7) 医学部大学院のあり方検討委員会（北川委員長）
- (8) 専門医に関するWG（古川座長）
- (9) 動物実験検討委員会（門松委員長） ※欠席のため議長より報告
- (10) 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会（大屋委員長）

- (11) 患者安全推進委員会（坂本委員長）
- (12) 大学病院の医療に関する委員会（横手委員長）
- (13) 医師の働き方改革検討委員会（横手委員長）
- (14) DPC（包括評価支払制度）に関するWG（林座長）
- (15) 経営実態・労働環境WG（海野座長）
- (16) 臨床研究・利益相反検討委員会（苛原委員長） ※欠席のため岩井理事より報告
- (17) 男女共同参画推進委員会（唐沢委員長）
- (18) 被災地医療支援委員会（尾野委員長）
- (19) 医学部・医科大学の白書調査委員会（道川委員長）
- (20) カリキュラム調査WG（伊野委員長）
- (21) 新型コロナウイルス（COVID-19）に関わる課題対応委員会（瀬戸委員長）
- (22) 共用試験検討委員会（佐藤委員長）

5. その他

その他報告資料1：理事会及び総会の開催日程について

【 閉 会 】

※11月理事会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 令和3年度 11月 理事会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和3年11月26日(金) 13:00～16:00

開催方法：web会議 (Zoom)

開催場所：全国医学部長病院長会議事務局 会議室

【開 会】

1. 会 長 挨 拶

2. 確 認 事 項

理事会・専門委員長会合同会議 議事録の確認について

確認資料1：理事会・専門委員長会合同会議 議事録

(4. 報 告 事 項)

専門委員会委員長・ワーキンググループ座長報告

(1) 大学病院の医療に関する委員会 (横手委員長)

(口頭報告)

(2) 医師の働き方改革検討委員会 (横手委員長)

(口頭報告)

3. 審 議 事 項

第1号議案：就業規則等の改正について

審議資料1：就業規則等の改正について

第2号議案：令和4年度定例社員総会の開催方法について

審議資料2：令和4年度定例社員総会の開催について

4. 報 告 事 項

専門委員会委員長・ワーキンググループ座長報告

(3) 医学教育委員会 (齊藤委員長)

報告資料1：各大学における新型コロナウイルスへの対応に関するアンケート集計
結果

(4) 大学医学部入学試験制度検討小委員会 (渡邊委員長)

(口頭報告)

(5) 国家試験改善検討WG (岩間座長) ※欠席のため議長より報告

(6) 医学部大学院のあり方検討委員会 (北川委員長)

報告資料2：令和3年度 第1回医学部大学院のあり方検討委員会議事要旨

- (7) 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会（大屋委員長）

報告資料3：地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会 報告

- (8) 経営実態・労働環境WG（海野座長）

報告資料4：大学病院経営実態調査概要報告

- (9) 臨床研究・利益相反検討委員会（苛原委員長）

報告資料5：臨床研究・利益相反検討委員会 報告

- (10) 男女共同参画推進委員会（唐沢委員長） ※欠席のため議長より報告

報告資料6：男女共同参画に対する意識調査結果

- (11) 新型コロナウイルス（COVID-19）に関わる課題対応委員会（瀬戸委員長）

報告資料7：新型コロナウイルス感染症が大学病院経営に与えた影響（2020年度）

- (12) カリキュラム調査委員会（伊野委員長）

（口頭報告）

- (13) 共用試験検討委員会（佐藤委員長） ※退席のため議長より報告

報告資料8：共用試験検討委員会 報告

5. その他報告事項

- (1) 令和3年度 第2四半期末収支について

その他報告資料1：令和3年度 第2四半期末収支計算書

- (2) 厚生労働省における医系技官の人事交流について

その他報告資料2：厚生労働省における医系技官の人事交流について

- (3) キャリア形成プログラムの改正について

その他報告資料3：キャリア形成プログラムについて

- (4) 令和5年度の医学部定員について

その他報告資料4：令和5年度の医学部定員について

- (5) 今後の理事会及び総会の開催日程について

その他報告資料5：今後の理事会及び総会の開催日程について

【 閉 会 】

委員会・WG活動内容

専門委員長会



委員長

東京大学 病院長
瀬戸 泰之

委員

古川 博之 (旭川医科大学)
八重樫伸生 (東北大学)
尾野 恭一 (秋田大学)
佐藤 慎哉 (山形大学)
竹石 恭知 (福島県立医科大学)
横手幸太郎 (千葉大学)
齊藤 延人 (東京大学)
北川 昌伸 (東京医科歯科大学)
汲田伸一郎 (日本医科大学)
唐澤久美子 (東京女子医科大学)
金井 隆典 (慶應義塾大学)
渡邊 卓 (杏林大学)
坂本 哲也 (帝京大学)
海野 信也 (北里大学)
伊野 美幸
(聖マリアンナ医科大学)
林 篤志 (富山大学)
岩間 亨 (岐阜大学)
門松 健治 (名古屋大学)
道川 誠 (名古屋市立大学)
苛原 稔 (徳島大学)
大屋 祐輔 (琉球大学)

I. 活動内容

専門委員長会は、AJMCの各種専門委員会の委員長により構成される委員会であり、専門委員会の数は17、WGの数は6となっています。

22名の委員長及び座長により運営される各委員会、WGは、各々が異なる分野の課題を扱っておりますが、AJMCは各委員会、WGの考え方の整合性を取り、一定の方向性をもって社会への提言・発信を行う必要があります。そのため平成17年より、専門委員長会がその役割を担うこととしており、委員長は専門委員長会での互選により就任します。

専門委員長会は発足以来、様々な課題と向き合ってきました。現在も課題は山積みですが、さらに新型コロナウイルス感染症に伴う課題への対応は、足掛け2年に及ぶ重要課題となっております。そのため、全国の医学部長、病院長の先生方には、一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。どうかよろしく願いいたします。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■理事会・専門委員長会合同会議開催：

日 時：令和3年8月3日(火) 16:30～18:00

議 題：委員会・WGの活動内容について

医学教育委員会



委員長

東京大学 理事・副学長
齊藤 延人

委員

高橋 誠 (北海道大学)
古川 博之 (旭川医科大学)
佐藤 慎哉 (山形大学)
竹石 恭知 (福島県立医科大学)
江頭 正人 (東京大学)
汲田伸一郎 (日本医科大学)
奈良 信雄 (順天堂大学)
渡邊 卓 (杏林大学)
武田 正之 (山梨大学)
染矢 俊幸 (新潟大学)
岩間 亨 (岐阜大学)
岩田 仲生 (藤田医科大学)
小西 靖彦 (京都大学)
赤池 雅史 (徳島大学)

I. 活動内容

本委員会は、4つのワーキンググループ(WG)と1つの小委員会、および教育という点で密接に関係する共用試験検討委員会と連携しながら、入試から、学部教育、初期研修、専門医教育まで、医学教育全般に関することを検討します。そのために各WG等の座長や委員長の先生にもメンバーになっていただき、連携体制を強化しています。特に令和2年度からの新型コロナウイルス感染症の流行により医学教育は工夫をして変更せざる得なくなっています。オンライン授業など新たな形態の教育法や学生さんへの対応について、各大学の情報を共有し工夫を分かち合い、充実した医学教育を支えることが重要なミッションの一つです。また、共用試験(CBT、OSCE)の公的試験化が令和2年度に法制化されました。臨床実習に関する事項については令和5年度に、医師国家試験の受験資格に関する事項については令和7年度にそれぞれ施行予定となっており、これらへの対応も大きな課題となります。さらに、医学教育カリキュラムの見直しやCC-EPOCへの対応などの課題に関して、状況分析と議論を深め、適切な医学教育の充実に貢献したいと考えております。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年5月19日(水) 13:00～14:00
議 題：地域医療研修について

日 時：令和4年1月19日(水) 18:00～19:00
議 題：共用試験の公的化について

日 時：令和4年2月21日(月) 18:00～19:30
議 題：共用試験の公的化について

■アンケート調査：

「第4回 各大学における新型コロナウイルスへの対応について」

※国立大学医学部長会議と合同実施

期 間：令和3年10月26日(火)～11月9日(火)

対 象：会員医学部長

結 果：会員へ送付

「共用試験の公的化に関するアンケート調査」

期 間：令和4年3月4日(金)～3月16日(木)

対 象：会員医学部長

結 果：会員へ送付

■要望書：

「共用試験公的化の実施に関する要望」

日 時：令和4年2月14日(月)

提出先：文部科学省、厚生労働省

大学医学部入学試験制度検討小委員会



委員長

杏林大学 学長
渡邊 卓

委員

佐田 尚宏 (自治医科大学)
齊藤 延人 (東京大学)
唐澤久美子
(東京女子医科大学)

益田 宗孝 (横浜市立大学)
大槻 勝紀 (大阪医科大学)
守山 正胤 (大分大学)

アドバイザー

嘉山 孝正 (山形大学)

I. 活動内容

大学医学部入学試験制度検討小委員会は、公正な医学部・医科大学入学試験のあるべき姿を提示し、それを可及的早期に実現することを目指して創設されました。2018年11月には「大学医学部入学試験制度に関する規範」を策定、その後、同規範の遵守状況の確認を目的として、2019年に実施された医学部・医科大学の入学試験についてのアンケート調査を実施し、その結果を2020年末に公表いたしました。さらに2021年には、2020、2021年入学試験についてのアンケート調査を実施し、現在集計中となっております。

当委員会は、上記規範の遵守状況のモニターを通して、引き続き、公正な医学部・医科大学入学試験に向けた活動を行って参ります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年9月16日(木) メール審議

議 題：2020・2021年医学部入学試験に関するアンケート調査（案）
について

■アンケート調査：

「2020・2021年大学医学部入学試験に関するアンケート調査」

期 間：令和3年10月1日(金)～11月1日(月)

対 象：会員医学部長

結 果：HP公表予定

医師養成のグランドデザイン検証 WG



座長

福島県立医科大学附属病院
病院長

竹石 恭知

委員

吉岡 充弘（北海道大学）
土橋 和文（札幌医科大学）
相原 道子（横浜市立大学）
内木 宏延（福井大学）
須藤 啓広（三重大学）
山上 裕機
（和歌山県立医科大学）
赤池 雅史（徳島大学）
前村 浩二（長崎大学）

アドバイザー

奈良 信雄（順天堂大学）
黒岩 敏彦
（大阪医科薬科大学）

I. 活動内容

平成16年に導入された新臨床研修制度を専門委員会にて検証し、平成19年9月に初版の「我が国の医師養成システムのあり方のグランドデザイン」が発刊されました。このグランドデザインの検証を行うため、平成22年10月に「医師養成のグランドデザイン作業WG」が発足し、このWGは現在の「医師養成のグランドデザイン検証WG」と改称されました。これまでのグランドデザインの検証を踏まえて、さらに卒前臨床実習、卒後臨床研修、専門医・高度医療人養成における、シームレスで一貫性と継続性を重視した国際性のある医学教育の前進と改革の実現に向けて、新たな医師養成グランドデザインを提唱いたしました。

会員の先生方には本WGの活動に御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

II. 活動報告（R3.4月～R4.3月）

■発刊物：令和4年3月31日

「我が国で求められる医師養成のためのグランドデザインへの提言
－卒前・卒後のシームレスな医学教育を目指して－」

国家試験改善検討 WG



座長

岐阜大学 副学長・教授
岩間 亨

委員

畠山 鎮次 (北海道大学)
廣田 和美 (弘前大学)
持田 智 (埼玉医科大学)
森 正樹 (東海大学)
平田 修司 (山梨大学)
富田 善彦 (新潟大学)
杉山 和久 (金沢大学)
道勇 学 (愛知医科大学)
平田 一人 (大阪公立大学)
山下 政克 (愛媛大学)
北園 孝成 (九州大学)

I. 活動内容

本WGでは、毎年、学生、教員を対象として「医師国家試験に関するアンケート調査」を独自に行っており、このアンケートの結果に基づいて厚生労働省など関係機関に要望書を提出し、医師国家試験の改善に向けて活動しています。

2021年2月に実施された第115回医師国家試験の受験者数は昨年第114回の10,140名から少し減少して9,910名であり、合格率の全国平均は91.4%、合格者数は9,058名で、過去最多であった第114回の9,341名から283名減少しました。2020年度はコロナ禍により講義や臨床実習、国試への準備に様々な影響が及んだ年であり、学生アンケートの結果では、試験全般に対する感想は「満足」と「少し満足」を併せて46.9%で第113回とほぼ同等でしたが、「不満」と「やや不満」との回答は併せて21.8%で第112回以降最も高率でした。コロナ禍に関しては「大きく影響した」56.7%、「少し影響した」27.6%で、その内容は「学習場所の制限」、「臨床実習の減少」、「グループ学習の減少」などでした。国家試験の実施に関しては、コロナ禍で様々な課題がある中で、大きなトラブルなく実施されたことに対する感謝の声が学生、教員の双方から聞かれましたが、一方でコロナに感染した場合に受験資格を失うという対応に対しては、不満と改善を求める声が多く聞かれました。

昨年まではWGメンバーの在籍する12校の卒業生をアンケート対象としていましたが、今回から全国80大学医学部・医科大学の卒業生を対象としたWebアンケート形式に変更したため、回答総数は2,138件とこれまでの2～3倍となりました。今回の結果は、コロナ禍の影響に加えて、アンケート形式を変更したことが影響した可能性もあるため、次回以降の傾向を見た上で最終的に評価する必要があると考えています。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■WG開催：

日 時：令和3年12月7日(火) 16:00～17:00

議 題：第116回医師国家試験アンケート調査について

■アンケート調査：

「第116回医師国家試験に関するアンケート調査」

期 間：令和4年2月～令和4年5月

対 象：①医師国家試験受験生 ②教員・研修医
③国家試験改善検討WG委員

結 果：冊子にて配布予定

■要望書：「医師国家試験に関する要望書」

日 時：令和3年10月4日(月)

提出先：厚生労働省・文部科学省

■発刊物：令和3年9月「医師国家試験に関するアンケート調査結果報告」

卒後臨床研修検討 WG



座長

日本医科大学 病院長
汲田 伸一郎

委員

上野 義之 (山形大学)
田村 遵一 (群馬大学)
腰地 孝昭 (福井大学)
須藤 啓広 (三重大学)
藤澤 正人 (神戸大学)
杉野 法広 (山口大学)
酒井 昭典 (産業医科大学)

I. 活動内容

医学教育委員会を構成する委員会・WGの一つで、卒後臨床研修の現状と今後の在り方に関する検討を行います。臨床研修制度は2004年に導入され、2020年4月にも3回目の見直しが行われました。2020年の改定では、必須ローテーション診療科数が地域医療を含めた7分野に増加しており、研修医の基本的な診療能力の向上が期待される半面、診療科選択における自由度の低下が危惧されています。新改訂による効果に関しても本WGにて検証を行う予定です。「医師の偏在」の解消も踏まえて、臨床研修病院のマッチングや「都道府県別の募集定員上限（シーリング）」が設定されたことにより、研修医は大都市から地方へと一定数移行し、ある程度の効果は得られたものと考えられます。ただ、この流れと同時に、大学病院における研修医数に減少傾向がみられ、2020年度のマッチングにおける大学病院での研修は全体の40%をも下回っています。これらの方策が、短期のみならず中長期的にいかなる影響をもたらすのかに関しても、注視・議論していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

専門医に関する WG



座長

旭川医科大学 病院長
古川 博之

委員

八重樫伸生 (東北大学)
富永 悌二 (東北大学)
竹石 恭知
(福島県立医科大学)
坂本 哲也 (帝京大学)
蒲田 敏文 (金沢大学)
大嶋 勇成 (福井大学)
小寺 泰弘 (名古屋大学)
杉浦 哲朗 (関西医科大学)
東田 有智 (近畿大学)
坂本 泰二 (鹿児島大学)

アドバイザー

大川 淳
(東京医科歯科大学)
宮本 享 (京都大学)
秀 道広 (広島大学)

I. 活動内容

日本専門医機構が平成26年5月に発足したことに伴い創設されたWGです。

18基本領域学会が選定する研修基幹病院の多くを大学附属病院が担っていることから、全国医学部長病院長会議 (AJMC) は日本専門医機構に深く関わっています。AJMC内には、各学会の専門医に関する委員会に関係しておられる会員も多数おられることから、これらの方々に委員となっていただき、情報を得てWG内で検討・総括し、AJMCとして提言を行っていく所存です。

平成30年7月の医療法及び医師法の改正により、専門医機構ならびに18基本領域学会は、厚生労働大臣の意見を聞くことが求められるようになり、専門医機構からも、18基本領域学会に対して十分な説明がないまま、新しい制度 (シーリング、マッチング、マイページ等) の導入や制度の変更が拙速に進められる場面がしばしば見受けられてきました。これに対して、18基本領域学会では、組織として専門医機構等に意見を述べていくため、基本領域学会連携協議会を立ち上げており、WGとしては、この連携協議会からも情報を得てAJMC内で共有するとともに、一社員として専門医機構に対しても意見具申を行っていく必要があると考えています。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■WG開催:

日時: 令和4年2月25日 (金) 10:00 ~ 11:00

- 議題: 1. シーリングについて
2. マイページについて
3. 計画されているマッチングについて

共用試験検討委員会



委員長

山形大学 病院長
佐藤 慎哉

委員

増田 道明 (獨協医科大学)
小湊 慶彦 (群馬大学)
江頭 正人 (東京大学)
富田 善彦 (新潟大学)
若槻 明彦 (愛知医科大学)
河田 則文 (大阪公立大学)
友田 幸一 (関西医科大学)
粟井 和夫 (広島大学)

I. 活動内容

2002年に医療系大学間共用試験実施機構（CATO）が設立され、2005年から臨床実習開始前の学生の能力を評価する共用試験（CBT, OSCE）が正式実施されました。以後、関係者の努力によりわが国の医学教育の重要な制度として確立され、合格者をStudent Doctorとして認定し臨床実習の場に送り出しています。

2020年、2021年とCOVID-19感染症が蔓延する中、共用試験の実施への対応が当委員会の喫緊の課題となり、今後もCATOに柔軟な対応をお願いするなど課題解決に取り組んでいきます。

2021年5月に公布された「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」により、2023年度から、大学が共用する試験として厚生労働省令に定めるもの（公的化された共用試験）に合格したものは、臨床実習において、医師の指導監督の下に医業を行うことができるようになります。現在CATOが実施している共用試験を、厚生労働省令に位置づけ、公的化する方向で、文部科学省、厚生労働省、CATO、AJMC等により論点が整理されつつあります。

本委員会では、試験の公的化と並行して、各大学の負担軽減とOSCEの質的保証の精度向上を目指し、教育分野を統括する医学教育委員会と連携しながら活動しています。

II. 活動報告（R3.4月～R4.3月）

■委員会開催：

- 日 時：令和3年7月16日（金）メール審議
議 題：共用試験検討委員会 活動計画書（案）
- 日 時：令和3年8月6日（水）15:00～17:00
議 題：共用試験の公的化における課題等について
- 日 時：令和3年10月5日（火）メール審議
議 題：共用試験公的化の論点について
- 日 時：令和3年12月8日（火）メール審議
議 題：共用試験の公的化に向けた論点のアンケート結果の概要（案）について

■アンケート調査：

「共用試験の公的化に向けた論点について」
期 間：令和3年11月17日（水）～11月26日（金）
対 象：会員医学部長
結 果：会員に送付

医学部大学院のあり方検討委員会



委員長

東京医科歯科大学 教授
北川 昌伸

委員

畠山 鎮次 (北海道大学)
松原 久裕 (千葉大学)
岡野 栄之 (慶應義塾大学)
寺内 康夫 (横浜市立大学)
中山 淳 (信州大学)
藤枝 重治 (福井大学)
東田 有智 (近畿大学)
豊岡 伸一 (岡山大学)
小玉 正太 (福岡大学)

I. 活動内容

医学部大学院は我が国の医学教育の中で、研究の側面を主に担いMD研究者・医学博士を育成するという点で大きな役割を果たしてきました。しかしながら、初期研修必修化以来、医学部の卒業生は臨床研修を優先する傾向が強くなり、全国の大学でMD出身の基礎医学研究者を志向する者が激減することになりました。新型コロナウイルス感染拡大も研究活動への誘いに対して負の影響を及ぼしています。そもそも医学部教育は医師の養成のために多くの時間を割く必要があり、学部の中に研究を開始する他学部と比較すると、研究のスタートが遅れるという課題が以前からありましたので、これらの事態は基礎研究離れを加速させ、日本の医学研究力低下を来たしかねない大きな課題となっています。今後新しい専門医制度、サブスペシャルティ制度が定着すると、さらに臨床修練に時間がかかることになり研究をする時間が犠牲になる可能性もあります。医師の働き方改革の実践とも相まって、医師としての修練と研究者としての研究との両立が難しくなるということでありましょう。本委員会では引き続きこれらの課題を検討し、医学部大学院のあり方を提言していきたいと考えております。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年9月14日(月) 15:00～17:00

議 題：医学部大学院の現況に関するアンケート調査結果の分析について

■アンケート調査：

「医学部大学院の現況に関するアンケート調査」

対 象：会員医学部長

期 間：令和2年8月7日(金)～9月30日(水)

結 果：会員に送付

動物実験検討委員会



委員長

名古屋大学 副総長
門松 健治

委員

吉岡 充弘（北海道大学）
金井 正美
（東京医科歯科大学）
中尾 篤人（山梨大学）
中山 淳（信州大学）
岩田 仲生（藤田医科大学）
喜多 正和
（京都府立医科大学）
中尾 和貴（大阪大学）
浅沼 幹人（岡山大学）
越本 知大（宮崎大学）
浦野 徹
（自然科学研究機構）

I. 活動内容

動物実験検討委員会委員長を拝命している名古屋大学の門松です。何卒これからもご指導をよろしくお願い申し上げます。動物実験では、我々は今後とも3Rの原則に基づいて、動物愛護の観点からも一層の厳格な運用に努めなければなりません。「動物の愛護及び管理に関する法律」について、当委員会では引き続き、様々な角度から我が国の動物実験の在り方について議論を深める予定にしております。代替手段のない場合、動物実験は医学研究に極めて重要なものであり、今後も、人類の福祉に大きく貢献することが期待されます。これからも、動物愛護の精神を尊んだ、透明性の高い動物実験の運営にご協力をお願いいたします。

地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会



委員長

琉球大学 病院長
大屋 祐輔

委員

佐々木真理 (岩手医科大学)
南谷 佳弘 (秋田大学)
長谷川仁志 (秋田大学)
田中 誠 (筑波大学)
小池 創一 (自治医科大学)
篠塚 望 (埼玉医科大学)
井口清太郎 (新潟大学)
小西 靖彦 (京都大学)
吉川 公彦
(奈良県立医科大学)

松本 正俊 (広島大学)
阿波谷敏英 (高知大学)
前田 隆浩 (長崎大学)
大脇 哲洋 (鹿児島大学)

アドバイザー

小林誠一郎 (岩手医科大学)

オブザーバー

川妻 由和 (琉球大学)

I. 活動内容

「地域における医師養成の在り方に関する委員会」は、令和3年度より、活動の類似性とキャリアパスの連続性を考慮し、「地域医療委員会」と合併し、「地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会」となりました。

顕著化していた医師の地域偏在を緩和する一つの方策として、「地域枠」の制度や臨時定員増が行われてきました。これまで、本委員会は各大学が地域の実情に合わせてさまざまな形の「地域枠」を設定している、医師不足地域で働く医師数が増加しているなどの情報を発信してきました。現在、厚生労働省の医師受給分科会において、医学部定員の減員、とくに臨時増員分の削減の方針が示されています。今後、各大学は、それぞれの地域における医師不足、地域偏在、診療科偏在などに合わせて、地域枠の定員数や義務の内容などの設定を再考する必要があります。新委員会としても、調査の継続により、地域枠制度の有用性や実効性、また課題などを明らかにし、改善などの提言につながるよう務めていきたいと思っています。

「地域医療委員会」では、臨床研修制度の変更に伴い、大学で働く研修医が減少したことを受けて、初期研修医のマッチングおよび初期研修修了後の医師の動向に関する調査を行ってきました。大学病院の初期研修医の充足率や受入数は年々減少しています。一方、修練医・専攻医（後期研修医）の受け入れ数や受け入れ率は、回復しているものの地域差が大きいことが分かってきました。今後の医師不足対策、地域医療の充実において、大学および大学病院の果たす役割が大きいことから、新委員会としても、初期研修医や修練医・専攻医の調査を継続的に行って、大学病院の現状や派遣の現状について、専門医機構や社会に発信する必要があると考えています。

各大学におかれましては大変煩雑な調査となっておりますが、引き続き、ご協力のほどをお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年11月23日(火) 16:30～18:00

議 題：今年度の事業実施内容について

日 時：令和3年12月1日(月) 16:00～17:00

議 題：今年度の事業実施内容について（発表と意見交換）

■意見交換：地域枠制度についての意見交換会

日 時：令和4年3月5日(土) 9:30～12:30

場 所：オンライン開催

■アンケート調査：

「令和3年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査」

期 間：令和3年1月13日(木)～1月31日(月)

結 果：冊子にて配布予定

「地域枠医師へのアンケート調査」

期 間：令和3年2月4日(金)～3月7日(月)

結 果：冊子にて配布予定

患者安全推進委員会



委員長

帝京大学 病院長
坂本 哲也

委員

橋本 重厚 (福島県立医科大学)
中島 勲 (埼玉医科大学)
岩瀬博太郎 (千葉大学)
米村 滋人 (東京大学)
櫻井 淳 (日本大学)
三木 保 (東京医科大学)
吉田 謙一 (東京医科大学)
大嶽 浩司 (昭和大学)
小林 弘幸 (順天堂大学)
後藤 隆久 (横浜市立大学)
大磯義一郎 (浜松医科大学)
中島 和江 (大阪大学)
中村伸理子 (福岡大学)
水谷 渉 (日本医師会総合政策研究機構)

アドバイザー

有賀 徹 (昭和大学)

I. 活動内容

患者安全推進委員会の委員長を拝命している帝京大学の坂本です。本委員会は、「医療に対する安全・安心をより向上させる」という意味を含め、一昨年に「大学病院の医療事故対策委員会」を「患者安全推進委員会」と改称し、活動を行っております。

今期も、医療事故調査制度について、大学病院本院と分院へのアンケート調査を継続して実施し、課題を抽出して検討し、社会へ発信してまいります。また、医療と刑事司法の関わり方についての検討も継続し、医学の専門家からの建設的な意見を取りまとめ、相互理解が深まるよう司法等へ働きかけてまいります。

無過失補償制度の在り方をめぐっては、同制度を我が国で導入する場合の課題について、産科医療補償制度の検証等を踏まえた検討を重ね、論点を整理しているところです。

今後も、患者安全の向上を目指すとともに、健全な医療に邁進できる環境を整備し、臨床現場に係る全ての関係者間における信頼構築を軸に多岐にわたる論考を進めて行きます。関係各位には多大のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年8月23日(月) 14:00～15:30

議 題：1. 講演「産科医療補償制度概説」
2. 質疑応答、討論

日 時：令和4年3月15日(火) 14:30～16:30

議 題：1. 無過失補償制度に関する保険会社へのヒアリング
2. 医療事故調査制度における支援に関連する要望について
3. 死後にAiを撮影した患者の遺族から画像の開示請求について
4. 大学病院の医療事故調査制度への対応・2021年アンケート結果について

■アンケート調査：

「医療事故調査制度に関するアンケート調査」

期 間：令和3年4月16日(金)～令和3年5月21日(金)

対 象：会員病院長／各病院医療安全管理責任者

大学病院の医療に関する委員会



委員長

千葉大学 病院長
横手 幸太郎

委員

秋田 弘俊（北海道大学）
佐藤 慎哉（山形大学）
田邊 一成
（東京女子医科大学）
坂本 哲也（帝京大学）
渡辺 雅彦（東海大学）
林 篤志（富山大学）
小寺 泰弘（名古屋大学）
田中 俊宏（滋賀医科大学）
阪上 雅史（兵庫医科大学）
吉川 公彦
（奈良県立医科大学）
前田 嘉信（岡山大学）
杉山 隆（愛媛大学）
松田 晋哉（産業医科大学）
馬場 秀夫（熊本大学）

アドバイザー

山本 修一（千葉大学）

I. 活動内容

大学病院は、医療人を育成するための教育機関、新しい医療技術の研究・開発を行う研究機関、高度な医療を提供する地域の中核的医療機関という3つの役割を担っている。そのうち、本委員会では、“大学病院の医療”に関する課題抽出と評価、解決へ向けての提言を扱う。

大学病院には、患者中心の医療、高度医療の提供と先端医療の導入、そして地域医療への対応が求められている。特に各地域において“最後の砦”として不可欠な存在であることは、今般の新型コロナウイルス感染症への対応からも明らかとなった。ところが、国家の財政状況と診療報酬制度、臨床研究法に基づく様々な制約、医師の働き方改革への適合など、多くの課題を抱え、日々、ギリギリの環境の中で医療を推進しなければならない。

本委員会は、DPC（包括評価支払制度）に関するワーキンググループ（以下、WG）、経営実態・労働環境WGを包含し、厚生労働省とも密接に情報交換しながら、各課題へ対応、教職員が誇りとやりがいを持ちつつ、国民に最高の医療を届けられる環境を求めていきたい。

II. 活動報告（R3.4月～R4.3月）

■合同委員会開催：

大学病院の医療に関する委員会・DPC（包括評価支払制度）に関するWG

日 時：令和3年7月1日（木）13:00～17:30

議 題：1. 令和4年度の診療報酬改定に向けた各病院の現状と課題
2. 令和4年度改定への要望事項の検討

DPC（包括評価支払制度）に関する WG



座長

富山大学 病院長
林 篤志

委員

小笠原邦昭（岩手医科大学）
南谷 佳弘（秋田大学）
汲田伸一郎（日本医科大学）
海野 信也（北里大学）
松山 幸弘（浜松医科大学）
小寺 泰弘（名古屋大学）
夜久 均
（京都府立医科大学）
南 敏明（大阪医科大学）
永井 敦（川崎医科大学）
杉山 隆（愛媛大学）
山下 秀一（佐賀大学）
馬場 秀夫（熊本大学）

アドバイザー

山本 修一（千葉大学）
小山 信彌（東邦大学）

I. 活動内容

このDPCに関するワーキンググループは、横手委員長の大学病院の医療に関する委員会の下部組織として、DPCに限らず、診療報酬全般の問題に対して検討するWGと位置づけられています。小山先生にご指導、ご助言を賜りながら、今後も進めてまいります。2021年度はWGの先生方を中心として各先生方のご意見を集約し、2022年度の診療報酬改定に向けて意見書を提出いたしました。長引くコロナ禍の中、2022年度には、対面での会議が可能わかりませんが、厚生労働省の方との意見交換も含めて、今回の診療報酬改定が大学病院の経営に与える影響を検討する予定です。

医師の働き方改革がいよいよ2年後に迫る中、国からの支援は改革を行っていく上で欠かせません。また、新型コロナウイルス感染症を受け、全国の大学病院は感染症対応も強く求められており、これらのことが実現できるよう診療報酬改定の影響を早期に検討する必要があると考えています。大学病院が日本の医療で果たすべき役割を果たしていけるように先生方からのご意見をいただきながら、要望していく必要があると思っています。

皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告（R3.4月～R4.3月）

■合同委員会開催：

大学病院の医療に関する委員会・DPC（包括評価支払制度）に関するWG

日 時：令和3年7月1日（木）13:00～17:30

議 題：1. 令和4年度の診療報酬改定に向けた各病院の現状と課題
2. 令和4年度改定への要望事項の検討

■講演会：

「診療報酬ならびにDPC（包括評価支払制度）に関する講演会」

日 時：令和4年3月18日（金）13:00～15:30

議 題：1. 令和4年度診療報酬改定を考える
2. 令和4年度診療報酬改定の概要
3. 総合討論、質疑応答

■要望書：

「令和4年度診療報酬改定に関する重点要望事項」

日 時：令和3年8月16日（木）

提出先：厚生労働省

経営実態・労働環境 WG



座長

北里大学 名誉教授
海野 信也

委員

秋田 弘俊（北海道大学）
小笠原邦明（岩手医科大学）
原 晃（筑波大学）
横手幸太郎（千葉大学）
田邊 一成
（東京女子医科大学）
林 篤志（富山大学）
内山 和久（大阪医科大学）
吉川 公彦
（奈良県立医科大学）
杉山 隆（愛媛大学）

アドバイザー

山本 修一（千葉大学）
小山 信彌（東邦大学）

I. 活動内容

大学病院の医療に関する委員会：経営実態・労働環境ワーキンググループの中心的な任務は、大学病院の経営の実態と課題、そして大学病院勤務医の労働環境の改善状況を、調査を通じて把握し、詳細な報告書を作成して会員施設の間で共有することです。基本的に診療報酬改定の翌年に実施してきました。これまでに6回の調査を行いました。

改正労働基準法の施行とともに、大学病院は2024年度に向けて、「医師の働き方改革」を本格的に推進する必要があります。前回の調査からは、新たに調査項目を追加し、医師の働き方改革への取り組みに関する調査を併せて行っています。

2021年度に実施した直近の調査結果は2022年2月に会員施設にお送りいたしました。他の大学病院の状況、働き方改革への取組等、詳細な内容となっております。今後の病院運営に是非活用いただきたくご一読をお願いいたします。調査結果及び本WGの活動について、ご意見、ご要望等がございましたら、なんなりとご連絡いただければ幸いです。

II. 活動報告（R3.4月～R4.3月）

■WG開催：

日 時：令和3年10月4日（月）10：00～12：00

議 題：令和3年度 大学病院経営実態調査の調査結果について

■アンケート調査：

「令和3年度 大学病院経営実態調査」

期 間：令和3年5月31日（月）～6月30日（水）

対 象：会員病院長

結 果：冊子にて配布

総務委員会



委員長

東北大学 医学部長
八重樫 伸生

委員

今谷 晃 (東北大学)
齊藤 延人 (東京大学)
坂本 哲也 (帝京大学)
平田 一人 (大阪公立大学)
友田 幸一 (関西医科大学)
福永 仁夫 (川崎医科大学)

I. 活動内容

全国医学部長病院長会議では国内の医学部・大学病院にまつわるさまざまな課題を扱っています。教育、研究、診療、卒後研修、倫理など多種多様な課題から問題点を抽出し担当する委員会やWGに分掌し議論を深め課題解決や状況改善を進めています。一方、所掌すべきところが判然としないような課題、あるいはいくつかの委員会にまたがるような問題に関しては、それを扱う適当な受け皿がなくなることもあります。総務委員会はそういった受け皿として“何でも屋”的活動をする委員会として設置されました。各種委員会やWGに“御用聞き”を適宜させていただき、課題を調査検討しながら規程や申し合わせなどの整理をします。AJMCで扱うさまざまな案件の中で、どの委員会で検討すべきかよくわからないようなもの、複数の委員会が絡むような案件がありましたら、そのときは総務委員会の出番になります。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年11月15日(月) メール審議
議 題：規程の改定と制定について

臨床研究・利益相反検討委員会



委員長

徳島大学
医歯薬学研究部長
苛原 稔

委員

花岡 英紀 (千葉大学)
南学 正臣 (東京大学)
吉田 雅幸
(東京医科歯科大学)
北川 雄光 (慶應義塾大学)
岩田 仲生 (藤田医科大学)
岩井 一宏 (京都大学)
土岐祐一郎 (大阪大学)
河田 則文 (大阪公立大学)
赤池 雅史 (徳島大学)

I. 活動内容

本委員会では、「医系大学・研究機関・病院のCOIマネジメントガイドライン」、「研究者主導臨床試験の実施にかかるガイドライン」、「組織COIガイダンス」などのガイドラインや指針を公表し、臨床研究やCOIの管理のあり方を示すとともに、医療系研究施設における臨床研究について行政、製薬協、日本医学会などの関連団体と積極的に意見交換を行い、臨床研究の円滑推進を目指してきました。また、大学教員の製薬企業等からの講師謝礼の受け入れについての考え方を示し、アカデミア研究者の立場に立った研究環境整備を提案してきました。

令和3年度においては、会員大学の皆様にご協力いただき「臨床研究法施行後の研究推進に関する現状アンケート調査」、「製薬企業等からの謝金等の受領に関するアンケート調査」、「組織COIに関するアンケート調査」の3種類のアンケート調査を実施いたしました。分析でき次第、①AJMCが今までに作成したCOI、研究者主導臨床研究に関する各種ガイドラインや指針を最近の考え方に合わせて改訂、②各施設で円滑に臨床研究が推進されるよう臨床研究法の問題点の解消を行政に働きかける、③医学研究の発展のために必要な奨学寄附金の動向を注視しながら現状についての動向把握を行い、必要に応じて関係団体との意見交換を行う、④臨床研究中核病院が適切な運営ができるようにサポートする、などを進めるとともにこれからもアカデミアにおける臨床研究推進を支援していきたいと思っています。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年6月21日(月) 17:00～19:00

議 題：1. 講演等の謝礼に関するアンケートについて
2. 臨床研究法に関するアンケートについて
3. COI, 臨床研究ガイドラインの改定の開始について

日 時：令和4年2月8日(火) 18:00～20:00

議 題：企業主催および共催の講演会における事前スライドチェックに関して

■アンケート調査：

「令和3年度臨床研究法施行後の研究推進に関する現状アンケート調査」
「令和3年度製薬企業等からの謝金等の受領に関するアンケート調査」
「令和3年度組織COIに関する調査」

期 間：令和4年2月16日(水)～3月16日(水)

対 象：会員

結 果：会員に送付(予定)

男女共同参画推進委員会



委員長

東京女子医科大学 教授
唐澤 久美子

委員

山本 明美 (旭川医科大学)
名越 澄子 (埼玉医科大学)
林 由紀子 (東京医科大学)
大久保ゆかり
(東京医科大学)

前田 佳子 (昭和大学)
服部 信孝 (順天堂大学)
萬 知子 (杏林大学)
高松 潔 (東京歯科大学)
鈴木 利哉 (新潟大学)
梅田 朋子 (滋賀医科大学)
澁谷 景子 (大阪公立大学)
上田 夏生 (香川大学)
加藤 聖子 (九州大学)

I. 活動内容

本委員会は、大学病院に勤務する医師が、性別を問わずあらゆる分野で平等に活動に参画し、共に責任を果たすことができる体制を推進するための活動を行っています。

国が目指す男女共同参画社会は、働き方の多様化が進み、男女共に働きやすい職場環境が確保されることによって個人が能力を最大限発揮でき、仕事と家庭の両立支援環境が整い、男性の家庭生活への参画が進み、男女がともに子育てや教育に参加する社会です。それを実現するための基本理念には、男女の人権の尊重、方針決定への男女共同参画、社会における慣行のあり方の見直し、男女が家庭生活で対等に役割を果たすことなどが掲げられています。

男女共同参画推進は、女性医師への支援ではありません。性別による診療科の偏在や就労状況の差の原因は女性医師にあるのではなく、固定的性別役割分担のような社会の意識や慣行にあることを認識していただく必要があると思われます。

本年度は、会員大学医師の男女共同参画に対する意識調査を実施し、その結果の解析より、男女共同参画推進のために必要な取り組みを提案することを事業計画といたしました。

今後も、これまでの委員会活動が積み重ねてきた成果をもとに、男女共同参画の推進に努めて参りますので、引き続きご指導とご支援をお願い致します。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年6月25日(金) 17:00～18:00

議 題：1. 今後の活動計画について
2. 男女共同参画に対する意識調査の分析

日 時：令和4年3月29日(火) 18:00～19:00

議 題：1. 「男女共同参画に対する意識調査」報告書 最終原稿の確認
2. 報告書に掲載する「まとめ及び男女共同参画推進のために必要な取組の提案」について
3. 調査結果の拡散手段について
4. 令和4年度事業「新型コロナウイルス感染症と働き方改革に伴う男女共同参画推進環境の変化の実態調査」について

■アンケート調査：

「男女共同参画に対する意識調査」

期 間：令和2年12月4日(金)～令和3年2月7日(日)

対 象：会員大学医学部、大学病院に勤務する教員、医師、研究者

結 果：冊子にて配布

広報委員会



委員長

慶應義塾大学 医学部長
金井 隆典

委員

河上 裕
(国際医療福祉大学)
坂部 貢 (東海大学)
岩田 仲生 (藤田医科大学)
岩井 一宏 (京都大学)
森井 英一 (大阪大学)

I. 活動内容

広報委員会の役割は、全国医学部長病院長会議における活動を、広く社会に正しく広報していくことにあります。わが国の医学・医療を取り巻く環境は激変しており、本会議の活動は、医療界のみならず、行政をはじめ、国民の皆さまに対して非常に大きな責任を担っています。本会議の活動の内容や成果を、ホームページ、広報誌、記者会見などを通じて、できるだけ分かりやすい言葉で、正確かつ迅速に、広く広報していくことは大変重要な責務であると考えています。ホームページにおける情報発信は、よりわかりやすく、見やすくするために、さらなる改善を加えて行きたいと思います。さらに、本会議の方向性やメッセージ、声明などについても、皆さまのご理解が得られるよう、皆さまに見えるかたちで活動を行っていきたいと思います。是非、よろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■発刊物 (予定)：令和4年4月 「広報 No.74」

被災地医療支援委員会



委員長

秋田大学 理事

尾野 恭一

委員

秋田 弘俊（北海道大学）

小笠原邦昭（岩手医科大学）

富永 悌二（東北大学）

佐藤 慎哉（山形大学）

鈴木 弘行
（福島県立医科大学）

横手幸太郎（千葉大学）

松山 幸弘（浜松医科大学）

小寺 泰弘（名古屋大学）

宮本 享（京都大学）

東田 有智（近畿大学）

椎名 浩昭（島根大学）

赤司 浩一（九州大学）

岩崎 昭憲（福岡大学）

アドバイザー

酒井 明夫（岩手医科大学）

嘉山 孝正（山形大学）

I. 活動内容

令和3年6月より富澤一仁先生の後任として委員長を拝命しました尾野です。よろしくお願い申し上げます。

本委員会は、東日本大震災による被災地への医療支援を取り扱う委員会として創生されました。本委員会の主な目的は、東日本大震災のような有事の際に被災地からの医療支援要請に応じて、AJMCや日本医師会など23組織（42団体）から構成される被災者健康支援連絡協議会と連携し、医師の派遣など被災地からの要求と供給をマッチングすることです。有事の際には直ちに行動が取れるよう、委員の間で何をすべきか常に情報共有し備えておきます。大災害発生時には、AJMCの会員の皆様には多くのご負担をお願いすることと存じますが、国民の命・生活のためにご協力の程よろしくお願い申し上げます。

また、一昨年7月には熊本県を中心に発生した豪雨で多くの方が被災されました。こうした局地的な災害発生時において、被災状況や医療支援の必要性の有無について調査し、医療支援の必要があれば被災者健康支援連絡協議会と協議し、直ちに支援の調整を行ってまいります。

新型コロナウイルス(COVID-19)に関わる課題対応委員会



委員長

東京大学 病院長
瀬戸 泰之

委員

富永 悌二 (東北大学)
内田 信一 (東京医科歯科大学)
井田 博幸 (東京慈恵会医科大学)
坂本 哲也 (帝京大学)
後藤 隆久 (横浜市立大学)
大坪 毅人 (聖マリアンナ医科大学)
宮本 享 (京都大学)
土岐祐一郎 (大阪大学)
松田 公志 (関西医科大学)

I. 活動内容

本委員会は、COVID-19対応に取り組む各大学病院の運営状況及び経営状況を把握するとともに、その実態状況を踏まえ、関係省庁・機関等に対して政策提言や要望事項についての活動を展開することを目標としています。全国的に第6波を迎え、いまだその及ぼす影響は甚大なものがあります。

各大学病院の運営状況及び経営状況についての調査を実施し、各大学病院への財政支援状況について実態を把握し検証を行っています。その結果、各大学病院への財政支援不足が見込まれることが明らかとなり、関係省庁・機関等に対して、改めて要望活動を実施してまいりました。また、大学病院の役割である重症・重篤なコロナ患者に対して、具体的にどのような治療を実施したのか、学術的な観点から各大学病院の診療実態を調査し公表することも行っております。

さらに、我が国全体が感染症医療に対して、今後どのように取り組んでいくべきか、その在り方やあるべき姿について政策提言を行うことも必要です。特定機能病院である大学病院が、今後、感染症医療にどのように取り組んでいくべきか、また地域の中で果たすべき役割についても検証が必要と考えております。

このように、COVID-19対策に限らず本委員会の課題は多岐に渡りますが、全国医学部長病院長会議の多様な委員会、ワーキンググループとも連携して取り組んで参りますので、皆様にはお力添えのほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：令和3年12月22日(水) 18:00～19:00
議 題：令和3年度新型コロナウイルス感染症に伴う医師派遣調整事業
(通称：コロナ人材確保ネットワーク) について

■アンケート調査：

新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査 (令和3年度)
期 間：令和3年4月～令和4年3月まで毎月

新型コロナウイルス感染症に関する緊急包括支援交付金等受給状況調査
期 間：令和3年4月末、6月末、9月末、12月末、令和4年3月末

新型コロナウイルス感染症患者に関する緊急アンケート調査
期 間：令和3年4月12日(月)～4月16日(金)

新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査 (2020年度)
期 間：令和3年6月15日(金)～7月9日(金)

新型コロナウイルス感染症に係る緊急アンケート調査
期 間：令和3年8月5日(木)～8月6日(金)

対 象：会員病院長
結 果：会員へ送付

■声 明：

「新型コロナウイルス感染症第4波－医療を崩壊させないために－」
日 時：令和3年5月6日(木)
提出先：厚生労働省、文部科学省、日本医師会、日本病院会、全日本病院協会

「新型コロナウイルス感染症第5波が大学病院診療に与える影響」
日 時：令和3年8月10日(火)
提出先：厚生労働省、文部科学省、日本医師会、日本病院会、全日本病院協会

医師の働き方改革検討委員会



委員長

千葉大学 病院長

横手 幸太郎

委員

山本 修一（千葉大学）

小山 信彌（東邦大学）

明石 勝也
（聖マリアンナ医科大学）

森 正樹（東海大学）

中島 茂（岐阜大学）

湯澤由紀夫（藤田医科大学）

吉川 公彦
（奈良県立医科大学）

馬場 秀夫（熊本大学）

I. 活動内容

すべての勤務医に時間外労働の上限規制が適用される2024年度が近づいています。診療・研究・教育のそれぞれに役割を期待され、成果を求められる大学医学部／病院の医師には、むしろ早朝から深夜まで働くことが美德であると認識されてきた時代が長かったように思います。その意味において、医療界の中でも、特に大学の医師にとって、この働き方改革は、価値観と構造の大転換です。

一方、現在の状況のまま、単純に労働時間を縮減するだけでは、既存業務の担い手が不足し、地域医療の崩壊や研究力の著しい低下を招くことが想像に難くありません。まずは、勤務時間と内容の正確な把握、業務の効率化、タスクシフト／シェアを含めた新たな担い手の確保、収入の確保、そして、地域や医療界全体を巻き込んだ機能分担や体制づくりなどを検討していくことが必要です。

そもそも、働き方改革には、医師の長時間労働を見直し、その健康を確保するという目的があります。日本社会の他業種へ目を向けてみれば、今では週休2日が当たり前となり、かつて流行した「モーレツ社員」や「24時間戦えますか？」といったフレーズも死語となっています。我々の後輩、あるいは孫子の代に、医師が、やりがいをもって無理なく従事できる魅力的な職業であり続けるための仕組みを今案しておかねばなりません。

本委員会では、会員の皆様との情報交換を大切にしながら、厚生労働省や文部科学省とも密接に連携の上、働き方のあるべき姿を検討していく所存です。

II. 活動報告（R3.4月～R4.3月）

■委員会開催：

日 時：令和3年6月14日（月）13:00～14:00

- 議 題：1. 当委員会の検討課題
2. 文科・厚労との協議について
3. 医師の働き方改革に関するアンケート調査項目について
4. 第3回医師の働き方改革セミナーの開催日について

日 時：令和3年7月7日（水）17:00～18:00

- 議 題：1. 第3回医師の働き方改革セミナーについて
2. 医師の働き方改革に関するアンケート調査結果（中間報告）について
3. 当委員会の今後の取り組みについて

日 時：令和3年10月8日（金）17:30～19:00

- 議 題：1. 「大学病院医師の労働と研鑽に関する考え方（案）」について（AJMC）
2. これまでの医師の働き方改革の推進に関する検討会の議論について（厚生労働省）
3. 令和4年度概算要求等について（文部科学省）

日 時：令和3年12月10日（金）10:00～11:30

- 議 題：1. AJMC「大学病院医師の労働と研鑽に関する考え方（案）」について
2. 前回委員会から継続の検討課題について
3. 第4回医師の働き方改革セミナー（R4年2月8日（火））について
4. 医師の働き方改革に関するアンケート調査（案）について
5. 委員の追加について

■アンケート調査：「医師の働き方改革に関するアンケート調査」

対 象：会員病院長

期 間：令和3年6月18日（金）～7月5日（月）

期 間：令和3年12月17日（金）～令和4年1月14日（金）

結 果：文部科学省と厚生労働省の検討の場や国会審議に向けて大学病院としての意見や要望に利用

■セミナー開催：

「第2回 医師の働き方改革セミナー」

日 時：令和3年5月7日（金）14:00～16:00

- 議 題：1. 母性健康管理措置及び母性健康管理指導事項連絡カードについて
2. 医師の働き方改革：医師の勤務実態把握
3. 医師の働き方改革：制度解説等
4. 総合討論・質疑応答

「第3回 医師の働き方改革セミナー」

日 時：令和3年7月27日（火）14:00～16:00

- 議 題：1. 昭和大学附属病院での勤務制度変更への取り組みについて
2. 医師の働き方改革に向けた熊本大学の取組
3. 2024年4月に向けたスケジュールと各種労働時間制度等の御紹介
4. AJMC働き方改革検討委員会からの質問に対する回答
5. 医療機関における宿日直許可について
6. 医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について
7. 総合討論・質疑応答

「第4回 医師の働き方改革セミナー」

日 時：令和4年2月8日（火）14:00～16:00

- 議 題：1. 大学病院医師の労働と研鑽に関する考え方について
2. 医師の働き方改革の施行に向けて
3. 医師勤怠管理ICT基盤構築に向けた順天堂大学における医師の働き方改革への取り組み
4. 医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について

参加者：会員大学の病院長や担当医師、事務部長・事務長、その他関係者

医学部・医科大学の白書調査委員会



委員長

名古屋市立大学 教授
道川 誠

委員

小笠原邦昭 (岩手医科大学)

羽瀨 友則 (秋田大学)

杉原 泉
(東京医科歯科大学)

三苫 博 (東京医科大学)

松藤 千弥
(東京慈恵会医科大学)

平形 道人 (慶應義塾大学)

泉 美貴 (昭和大学)

染矢 俊幸 (新潟大学)

安井 孝周
(名古屋市立大学)

大槻 眞嗣 (藤田医科大学)

若槻 明彦 (愛知医科大学)

上本 伸二 (滋賀医科大学)

村垣 泰光
(和歌山県立医科大学)

秀 道広 (広島大学)

片岡 寛章 (宮崎大学)

アドバイザー

江石 義信
(東京医科歯科大学)

奈良 信雄 (順天堂大学)

I. 活動内容

「わが国の大学医学部・医科大学白書」は、2年ごとに調査を行うことになっており、昨年(2020年)度が調査年であったことから、本委員会のほとんどの活動は昨年度に行われました。白書の調査対象は、大学の組織・運営体制、医学教育、臨床研修、大学院・研究、附属病院、社会貢献、国際交流など広範囲におよび、その調査項目は膨大です。白書には、調査内容の継続性が求められますが、同時に時代に相応した調査内容の追加や、膨大になった調査項目における不必要な項目の削除や質問内容などの整理等を検討し、適宜修正を加える必要があります。これまでの委員会で検討されてきた内容を踏まえて、新たな問題点や改善案等を洗い出し、内容を検討して調査項目を決定し、各大学へのアンケート調査を実施いたしました。

昨年度における委員会活動は、新型コロナウイルスの感染拡大への対応として、各大学にアンケート調査するための設問事項内容を検討する白書調査会議を、Web会議により行いました。従来は、対面会議で丸一日かけて行ってきた議論が、Web会議で十分に対応できるのかどうか心配でありましたが、各委員の皆様のご協力・ご尽力により、調査項目等の検討は十分にできたのではないかと思います。具体的には、調査項目の種類により、17名の委員を5グループに分け、各グループごとの検討会議と全体会議を通して、調査内容の検討を行いました。今回から導入した新たな調査としては、学生へのアンケートの実施があります。今後の教育のあり方を検討する際に役立てていただくことができれば幸いです。

白書のデータ項目には、それぞれの大学で懸案となっている課題に関して、全国の大学の現状を把握し、他大学との比較等に役立つ資料が豊富に含まれています。過去の白書のデータを利用すれば、経時的動向の解析も可能であり、プレゼン資料の作成等においても極めて有用なデータベースになると思いますので、関係各所でご活用いただければ幸いです。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■発刊物：令和3年5月

「わが国の大学医学部・医科大学白書2020」

カリキュラム調査委員会



委員長

聖マリアンナ医科大学
教授

伊野 美幸

委員

蒔田 芳男 (旭川医科大学)

尾野 恭一 (秋田大学)

山脇 正永
(東京医科歯科大学)

中村真理子
(東京慈恵会医科大学)

鈴木 利哉 (新潟大学)

川原 範夫 (金沢医科大学)

内木 宏延 (福井大学)

鬼形 和道 (島根大学)

瀬尾 宏美 (高知大学)

安元 佐和 (福岡大学)

谷口 純一 (熊本大学)

アドバイザー

奈良 信雄 (順天堂大学)

I. 活動内容

本委員会はAJMCの調査研究事業として、全国医学部のカリキュラムの現状調査を担当しております。2021年に調査解析検討委員会のワーキンググループから委員会として独立いたしました。

AJMCのカリキュラム調査の歴史は古く、1975年より「医学教育カリキュラムの現状」として隔年で報告書を発行しております。

我が国の医学教育は、時代により変遷を重ね、現在では国際基準に準拠した教育プログラムの構築、共用試験の公的化および卒前卒後教育のシームレス化、そして新型コロナウイルス感染症による新たな課題など、国内外の影響を受けながら日進月歩で改革が行われ続けています。

現在作成中の2021年度の報告書では、従来の調査に加え、すでに医学教育委員会が施行された各大学における新型コロナウイルスへの対応に関する調査結果も合わせて掲載し、パンデミックの中での医学教育の有り様も貴重な記録として保存いたします。

今後も引き続き、医学部の医学教育改革の動向の把握に資するよう、我が国の医学教育カリキュラムについての公的調査の役割を遂行する所存です。

アンケート調査につきましては、ご多忙にも拘らず、各大学医学部関係者の皆様にご回答をいただきまして、心より御礼申し上げます。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■委員会開催：

日 時：【全体会議】令和3年6月29日(火) 14:00～17:00

【第1グループ】令和3年6月23日(水) 13:00～16:00

【第2グループ】令和3年6月21日(月) 16:00～19:00

【第3グループ】令和3年6月16日(水) 16:00～19:00

【第4グループ】令和3年6月22日(火) 15:00～18:00 (1回目)

令和3年6月25日(金) 9:30～11:30 (2回目)

議 題：令和3年度「医学教育カリキュラム調査」のブラッシュアップ

日 時：【全体会議】令和4年3月3日(木) 13:00～17:00

【第1グループ】令和4年2月28日(月) 14:00～17:00

【第2グループ】令和4年2月24日(木) 14:00～17:00

【第3グループ】令和4年2月22日(火) 13:30～16:30

【第4グループ】令和4年2月17日(木) 9:00～12:00

議 題：「2021年度 医学教育カリキュラム調査」の調査結果について

■アンケート調査：「令和3年度 医学教育カリキュラム調査」

期 間：令和3年8月17日(火)～9月30日(木)

対 象：会員医学部長

結 果：冊子にて配布予定

医療に関する懇談会—日本医師会・全国医学部長病院長会議—



委員長

藤田医科大学
学長・統括病院長
湯澤由紀夫

委員

富澤 一仁 (熊本大学)
尾野 恭一 (秋田大学)
八重樫伸生 (東北大学)
佐藤 慎哉 (山形大学)
横手幸太郎 (千葉大学)
齊藤 延人 (東京大学)
瀬戸 泰之 (東京大学)
北川 昌伸
(東京医科歯科大学)
唐澤久美子
(東京女子医科大学)
金井 隆典 (慶應義塾大学)
渡邊 卓 (杏林大学)
坂本 哲也 (帝京大学)
伊野 美幸
(聖マリアンナ医科大学)
門松 健治 (名古屋大学)
道川 誠
(名古屋市立大学)
苛原 稔 (徳島大学)
大屋 祐輔 (琉球大学)

I. 活動内容

全国医学部長病院長会議 (AJMC) は医学・医療の発展のため様々な活動を行っております。これらを実現していくためには大学医学部および附属病院における自らの取り組みも必要ではありますが、関係省庁や関係団体との連携や情報共有も必要となってきました。

当会が発出する提言等は、関係省庁や関係団体にも情報提供は行っていますが、関係団体の中でも日本医師会は社会における認知度や影響力も大きいことから、平成17年から懇談会を年数回開催してきました。

懇談会においては、AJMCが取り組んでいる医学教育の改善、医学研究の推進、医療安全の充実、医師の働き方改革など幅広く日本医師会と話し合い、意見を発信しております。

令和3年度においても新型コロナウイルス感染症の影響もあり、原則Webでの開催となりましたが、引き続き日本医師会とは連携しつつ、日本の医学部・附属病院がその機能を発揮できるようにします。

II. 活動報告 (R3.4月～R4.3月)

■懇談会開催：

日 時：令和3年4月8日(木) 16:00～17:30

議 題：1. 新型コロナウイルス感染症への対応について
2. 医師の働き方改革について

日 時：令和3年10月14日(木) 15:00～17:00

議 題：1. 日本医師会女性医師支援センターの制作物について
2. 地域医療について
3. 医師の働き方改革について
4. 新型コロナウイルス感染症への対応について

要望・声明・提言等 (令和3年4月～令和4年3月)

全国医学部長病院長会議では、専門委員会・ワーキンググループを中心に論議を重ね、常に社会に向けて情報を発信し、医学教育、研究、医療の様々な問題解決のために、行政等へ「改革の提言・要望」「声明」「調査結果の報告」等を行っています。

※本会議ホームページよりダウンロードできます。

<https://ajmc.jp>

■ 新型コロナウイルス感染症第4波 —医療を崩壊させないために— . . . 53

令和3年5月6日(木)

《提出先》

厚生労働省 医政局長
文部科学省 高等教育局医学教育課長
その他関係団体

■ 新型コロナウイルス感染症第5波が大学病院診療に与える影響 . . . 54

令和3年8月10日(火)

《提出先》

厚生労働省 医政局長
文部科学省 高等教育局医学教育課長
その他関係団体

■ 令和4年度診療報酬改定に関する重点要望事項 . . . 57

令和3年8月16日(月)

《提出先》

厚生労働省 保険局長

■ 医師国家試験に関する要望書 . . . 61

令和3年10月4日(月)

《提出先》

厚生労働省 医政局長（本要望書のみ掲載）
医政局医事課長
医政局医事課試験免許室長
文部科学省 高等教育局長
高等教育局医学教育課長

■ 共用試験公的化の実施に関する要望 . . . 62

令和4年2月14日(月)

《提出先》

厚生労働省 医政局長
文部科学省 高等教育局長

新型コロナウイルス感染症第4波 —医療を崩壊させないために—

令和3年5月6日

声 明

一般社団法人 全国医学部長病院長会議
会 長 湯澤 由紀夫（公印省略）
新型コロナウイルス（COVID-19）に関わる課題対応委員会
委員長 瀬戸 泰之（公印省略）

新型コロナウイルス感染症第4波 —医療を崩壊させないために—

全国医学部長病院長会議（AJMC）は、新型コロナウイルス感染症重症例に対する治療は極めて高度な集中治療を必要とするものであり、大学病院のような高度でかつ総合的な集中治療を行える施設が担うべきであるとの見解を發表している。実際、第4波の現時点でも、約半数の重症症例の治療は大学病院が担っていると推測される。一方、大学病院は臓器移植を初めとする高度な先進的医療も担っており、その多くは集中治療を必要とする。新型コロナウイルス感染症重症例の増加が、通常行われている集中治療に甚大なる影響を及ぼすことが懸念されており、関西ではすでに現実のこととなっている。新型コロナウイルス感染症の集中治療では、人員及びECMOなどの医療資器材の負荷が通常の集中治療より大きくなることが知られており、おのずと集中治療を受けられる症例数も制限される。3次救急、臓器移植、大きな侵襲となる癌手術、心不全、脳卒中などの診療制限が現実味を帯びている。

大学病院は、できる限り多くの命を救うため、通常の集中治療を極力維持しつつ、新型コロナウイルス感染症重症例の治療をも遂行していく覚悟である。しかしながら、感染ピーク時には、通常の集中治療を制限しなくてはならない事態も予想されるため、各地域での大学病院の役割を鑑みて最善の判断をしなければならない局面となっている。

もっとも重要なことが、感染の更なる拡大の防止であることは自明である。国民の健康を守るためにも、一人一人が強い自覚を持って行動していただくことが肝要である。

以下、医療（集中治療）を崩壊させないために、強く訴える。

- ・“下り”の流れの構築。大学病院が重症例を多数受け入れるためには、重症例が安定し、滞りなく中等症受入れ病院への搬送転院も効果的であると考え。新型コロナウイルス感染症重症例の入院期間は長期になる傾向があり、医療機関の役割をさらに明確化し、流れをスムーズにしなければ多数の重症例を受け入れることは困難である。
- ・都道府県の垣根を超えた、国難（災害）としての対応が必要。隣県及び広域搬送などにより、医療資源のさらなる効率的運用を検討すべき。

新型コロナウイルス感染症第5波が大学病院診療に与える影響

令和3年8月10日

国民の皆様へ

新型コロナウイルス感染症第5波が大学病院診療に与える影響（声明）

新型コロナウイルス感染症第5波が全国的に広まっており、地域によっては感染者数が爆発的に増加しています。大学病院は、その重症例を重点的に診療する役割を担うとともに、新型コロナウイルス感染症以外の命に直結する疾患に対しても高度な医療を提供しています。脳死臓器移植など緊急性の極めて高い治療も多く行っています。新型コロナウイルス感染症重症例も緊急的救急疾患であります。それらを両立させ、診療を維持しなければ医療は崩壊してしまいます。いままさに、その瀬戸際に立たされているところ です。

AJMC は、現在の大学病院の状況を把握するため緊急調査を行いました（資料参照）。すでに、全国 78 大学病院のうち、集中治療受入れ制限、救急受入れ制限、手術制限がそれぞれ 35%, 19%, 24% で行われており、今後その可能性も含めると、ほぼ半数の大学病院で明らかに通常診療に影響が出ていることがわかります。緊急事態宣言地域病院では、集中治療受入れ制限、救急受入れ制限、手術制限が 40%, 28%, 16% で行われており、すでに通常であれば「救える命が救えない」事態が始まっていると推測されます。

さらに、感染拡大に伴い、医療従事者への影響も懸念されます。病院職員のほとんどはワクチン接種済みと考えられますが、家族が感染陽性になり濃厚接触者になった場合には、2 週間の自宅待機が必要になります（同居家族の場合はさらに長くなります）。また、2 回ワクチン接種後の感染事例も散見されています。今回の調査では、全国大学病院の 36% で、すでに診療維持に影響を与えるような職員への影響が出始めています。緊急事態宣言地域病院では 44% で、その影響がでています。今後、全国 8 割以上の大学病院で、医療従事者の一時的減少による影響が予想されており、それが医療逼迫、崩壊の一因になりかねない状況です。

感染拡大を何としても抑えることが最重要であることは自明の理であります。全国の大学病院も最善を尽くしますが、国民の皆様にも、「明日は我が身」のことと認識し、危機意識を共有していただくよう切にお願いいたします。

一般社団法人 全国医学部長病院長会議

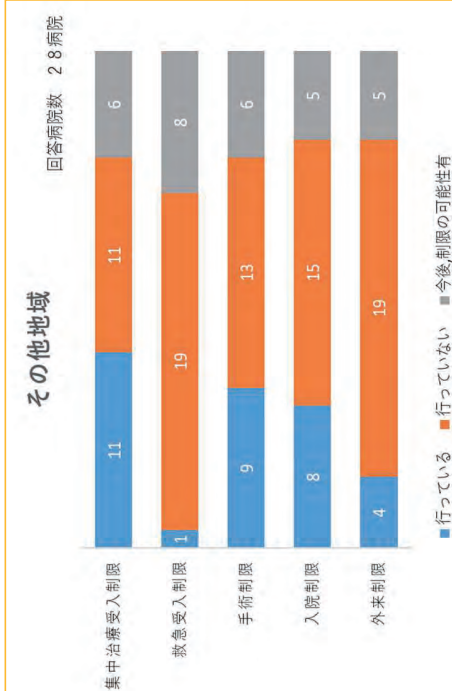
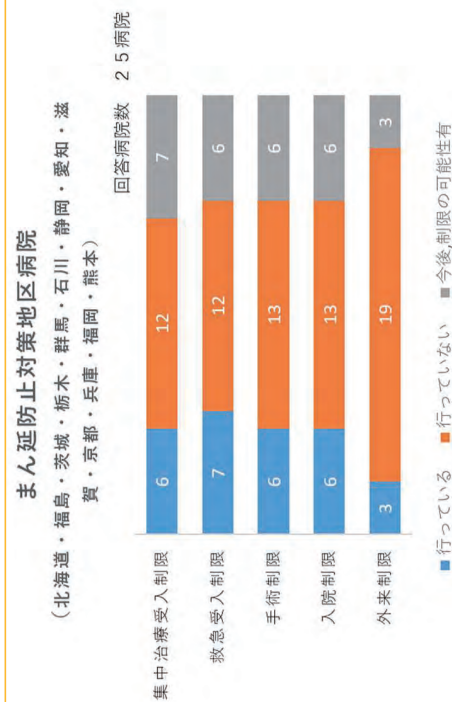
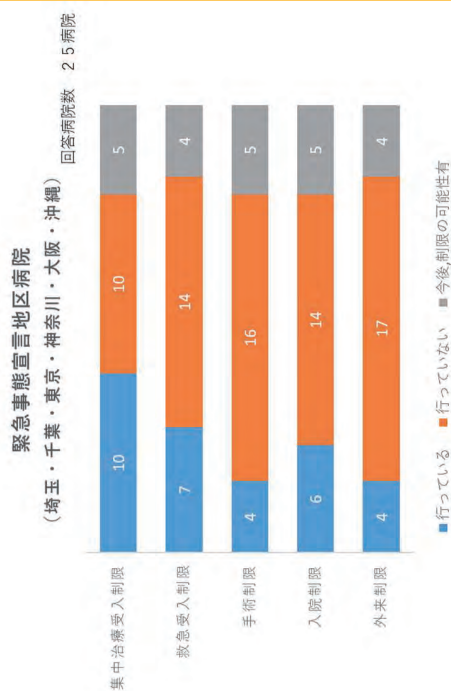
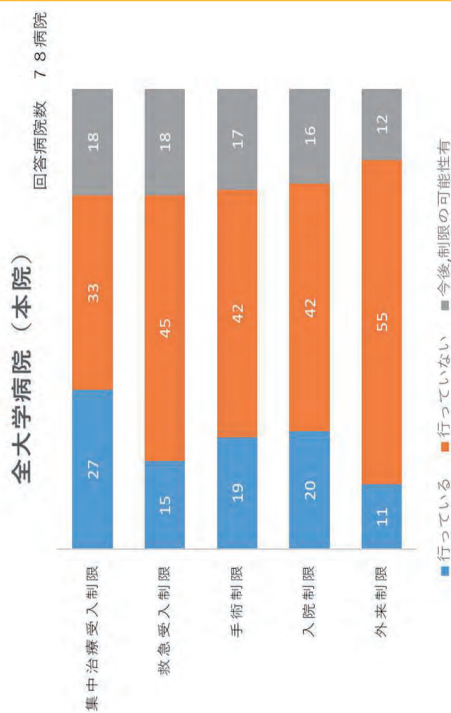
会 長 湯澤 由紀夫

新型コロナウイルス感染症に関わる課題対応委員会

委員長 瀬戸 泰之

通常診療への影響

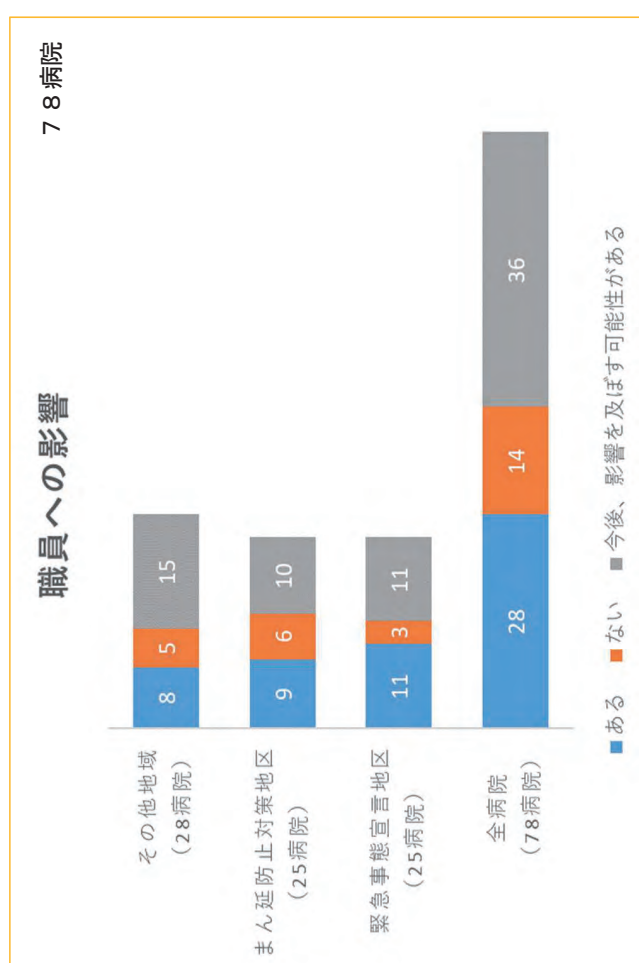
8月10日時点



1

職員への影響

8月10日時点



令和4年度診療報酬改定に関する重点要望事項

全医・病会議発第128号
令和3年8月16日

厚生労働省
保険局長 濱谷 浩樹 殿

一般社団法人 全国医学部長病院長会議
会 長 湯澤 由紀夫
一般社団法人 国立大学病院長会議
会 長 横手 幸太郎
全国公立大学附属病院長・事務長会議
代 表 中尾 直之
一般社団法人 日本私立医科大学協会
会 長 小 川 彰

令和4年度診療報酬改定に関する重点要望事項

令和4年度診療報酬改定に関して、以下の項目について、診療現場の現状を反映した診療報酬点数及び施設基準等を設定していただきたい。

特に、令和4年度の診療報酬改定は、令和6年度からの医師の働き方改革が円滑に実現できるかの重要な時期の改定と捉えられ、我が国の地域医療や感染症対策をはじめとした医療基盤の整備に重要な改定となるためその実現を強く要望します。

1. 新型感染症等にも対応できる診療報酬体制への見直し

大学病院は新型コロナウイルス感染症患者の特に重症症例患者の受入れを先頭に立って、明確な治療法もない中で医療崩壊ギリギリのところまで昼夜なく献身的に実施してきました。経営的には国からの支援交付金の支給などにより何とか維持してきましたが、今後の事を考えると補助金などではなく、診療や感染対策等に必要経費は診療報酬で賄われるべきものであります。ついては、今後の新型感染症の流行にも対応できる診療報酬体系の構築を要望します。

① 特定集中治療室管理料算定上限日数の延長

特定集中治療室管理料は最大14日間までの算定となっていますが、大学病院には算定日数の上限を超過しても集中治療管理が必要な重篤な患者が多数入院しています。

COVID-19に係る臨時的な取扱いにより、体外式心肺補助（ECMO）等を必要

とする状態の患者等、一定の条件を満たす場合に14日を超えて算定できるとされましたが、COVID-19以外の患者についても同様に、算定上限日数を延長して算定できるよう要望します。

② 感染対策の評価

COVID-19の感染拡大に伴い、感染防止対策に多くの人員を投入し、設備投資を行っています。また、COVID-19患者の受入れを行っている医療機関では、通常の医療を抑制して対応せざるを得ず、これらの一部は補助金や入院料等の臨時的な増点により補填されているものの、長期的には病院経営に大きな負担を与えることになります。

このような状況から、感染防止対策や感染症患者の受入れを恒常的に評価するため、感染防止対策加算の増点、及びDPC機能評価係数Ⅱ等による新たな評価項目の創設を要望します。

併せて、感染防止対策加算、入退院支援加算等の施設基準や算定要件で規定されている直接対面によるカンファレンスや面会については、ビデオ通話による実施でも可能とするよう基準の変更を要望します。

2. 医師の負担軽減に資するための診療報酬改定への要望

医師の働き方改革により医師の負担軽減を図るため、医師が行う業務を多職種が行うタスク・シェアリング/タスク・シフティングが進められていますが、その中でも特に以下の点について要望します。

- ① 医師事務作業補助者については、医師の負担軽減に大きく寄与しているものの、手厚い人員を配置するほど人件費が現状の診療報酬点数ではカバーできない状況であるため、医師事務作業補助体制加算における人員配置区分の増点と上位クラス(10対1)の新設を要望します。
- ② 看護補助者も同様に医師や看護職員の負担軽減に大きく寄与していますが、介護現場でも重用されている職種であり、必要人員を確保するには人件費が現状の保険点数ではカバーできない状況であるため、急性期看護補助体制加算の人員配置区分の増点を要望します。
- ③ 特定行為研修修了看護師の配置は、医師の業務の負担軽減と共に看護の質向上にも寄与するものと考えられます。国として特定行為研修修了看護師の配置を進めていることもあり、これらの配置に伴う診療報酬上の加算の新設を要望します。

3. 地域医療体制確保加算の施設基準

令和2年度診療報酬改定で新設された地域医療体制確保加算の施設基準において、「救急用の自動車又は救急医療用ヘリコプターによる搬送件数が、年間で2,000件以上である。」との実績が求められているが、人口が少ない地域ではこの要件を

達成することが困難であるため、施設に対する要件を「救急用の自動車又は救急医療用ヘリコプターによる搬送件数が年間 1,500 件以上 2,000 件未満の要件を新設」するなど、2 段階の要件設定とするなどの緩和を要望します。

併せて、医師の派遣機能を有する大学病院が、地域医療体制を確保していくための財源として、「地域医療介護総合確保基金」からの 100% 補助による支援が得られるよう要望します。

4. がんゲノムプロファイリング検査の算定方法の見直し

がんゲノムプロファイリング検査の算定方法は、検体提出時に 8,000 点、結果説明時に 48,000 点と 2 段階に分けて算定することとなっています。

本検査は、検体提出から結果説明まで 1～2 か月程かかり、また標準治療が終了となった固形がん患者が対象ということもあり、結果説明前に死亡してしまうことがあります。このような場合、検査を行っているにも関わらず、結果説明時の 48,000 点は算定できず、病院は多額の損失を負うことになります。また、DPC の包括対象となっているため、退院後に検査を実施するなど、患者への早期実施を躊躇させる状況も発生しています。

医療機関と患者の双方が不利益を被ることがないように、検査実施時に一括して検査料の算定ができること、また DPC 包括評価の対象外とすることを要望します。

5. 入院時食事療養費の増額と栄養ニーズに的確に対応するための特別食加算の評価の拡大

重症患者を多く抱える大学病院における食事療養は治療の一環としてその重要性が高まってきております。このような中で入院時食事療養費（Ⅰ）は、20 年以上増額されてない状況にあります。

その間、2 度の消費税増税、食材費や人件費の上昇により、食事療養の提供が非常に厳しい状況におかれています。

このため、入院時食事療養費及び特別食加算の増額と以下の特別食について特別食加算の対象となるよう要望します。

① 嚥下調整食への特別食加算の適用

嚥下機能評価を実施している施設が多く、嚥下食の指示が増えている。嚥下訓練をとおして経口摂取が安全に可能になることは、在宅医療の促進に重要である。残存機能を評価し、患者にあわせた食事を提供するには、献立作成・調理に高い技術力と高価な食材が必要とされるため、特別食加算の対象となるよう要望します。

② 食物アレルギー対応食への特別食加算の適用

近年、アレルギーを有する患者は乳幼児から高齢者まで増加傾向にある。これ

らのアレルギーに対応するには献立作成、食材の確保、コンタミネーションや誤配膳を防ぐために多くの人手と器具、調理場所が必要である。安全で安心な食事を提供するために食物アレルギー対応食を特別食加算の対象となるよう要望します。

医師国家試験に関する要望書

全医・病会議発第 166 号
令和 3 年 10 月 4 日

厚生労働省医政局
局長 伊原 和人 様

一般社団法人 全国医学部長病院長会議
会 長 湯澤 由紀夫
同上 国家試験改善検討ワーキンググループ
座 長 岩 間 亨

医師国家試験に関する要望書

第 115 回医師国家試験を受験した受験生および全国の大学医学部、医科大学の教員を対象に実施した医師国家試験に関するアンケート調査の結果に基づき、全国医学部長病院長会議として以下を要望いたします。

1. 試験に関する情報公開、受験環境の整備を引き続きお願いする。
2. 難易度の高い専門医レベルの問題は排除し、臨床実習の成果を問う質の高い良質な問題の出題にさらに尽力いただきたい。特に、一般問題には臨床実習の成果と無関係と見なされる問題が多く、共用試験 CBT との違いが明確でない問題も存在することから、その位置付けを明確にしていきたい。
3. 難易度の高い問題および必修問題で正解率の低い問題は採点から除外するなど、受験生の不利にならない適切な処置を引き続き講じていただきたい。
4. 感染症流行や自然災害時には関係する受験生の不利にならない適切な対応を検討いただきたい。
5. 全国医学部長病院長会議が公表した「医師養成の質保証と改革実現のためのグランドデザイン—全国医学部長病院長会議の立場から—」を参考に、医師国家試験の改革に関して、関係機関で検討を続けていただきたい。

共用試験公的化の実施に関する要望

全医・病会議発第 257 号
令和 4 年 2 月 14 日

厚生労働省医政局長
伊原 和人 様
文部科学省高等教育局長
増 子 宏 様

一般社団法人 全国医学部長病院長会議
会 長 湯澤 由紀夫
同上 医学教育委員会
委員長 齊 藤 延 人
同上 共用試験検討委員会
委員長 佐 藤 慎 哉
(押印省略)

共用試験公的化の実施に関する要望

平素から当会議の活動に関してご支援賜り厚く御礼申し上げます。

昨年 5 月の医療法及び医師法の一部改正により、当会議がかねてから要望いたしておりました、医学生の臨床実習に関する法的根拠となる共用試験が公的化されたことについて感謝申し上げます。会員一同更なる医学教育の充実に努めてまいる所存です。

共用試験の公的化に伴う試験内容の充実が医道審議会医師分科会医学生共用試験部会において検討されるにあたり、試験実施体制の強化等を伴うことによる大学の負担増が懸念されます。診療参加型臨床実習の充実による我が国の医療向上に資するためには、国による支援が必要不可欠であることから、以下のことについて強く要望します。

記

1. (共用試験の受験資格) 共用試験の実施は、厚生労働省令で定める機関と想定される「公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構」(以下「CATO」という。)が担当し、共用試験合格が診療参加型臨床実習への参加要件および医師国家試験の受験資格要件となるものと思料する。共用試験の受験要件については、大学が診療参加型臨床実習の実施に責任を負うことから、各大学が履修状況等を総合的に勘案して定める受験要件としていただきたい。この場合、共用試験の実施時期と大学で

の履修の進捗状況によっては、医師国家試験に見られるような「みなし受験」を可能としていただきたい。

2. (Student Doctor の称号) 共用試験に合格して臨床実習に進む学生の名称は現在使用されている「スチューデント・ドクター (Student Doctor)」の名称が、患者も社会も理解していることから適切であり、従来と同様、名札型の認定カードも発行するようにしていただきたい。
3. (共用試験の実施時期について) Computer Based Testing (CBT) 及び Objective Structured Clinical Examination (OSCE) の実施時期に関して、大学間で大きな開きがあると学生の成績に影響を与えうるが、各大学の独自性等の事情を考慮し、可能な限り、実施時期には幅をもたせていただきたい。
4. (OSCE の課題数増について) これまで OSCE の課題数は 6 課題程度であった。公的にあたり 10 課題まで増やすのであれば、標準模擬患者 (Standardized Patient : SP) や評価者等の試験に関与する人員の増員、試験会場の増設、試験期間の延長などが必要となる。SP の養成や評価者の増員には時間を要することを考慮すると、令和 5 年度は 8 課題から開始するのが適当である。10 課題実施となるまでには移行期間を設け、この間に以下に要望するような模擬患者の確保、評価者の確保、全国数カ所の OSCE センターの設置などの実施体制を充実させる必要がある。
5. (模擬患者の確保) OSCE 実施のための施設や SP の確保はこれまで各大学の自助努力に委ねられてきた。職員や学生がその役割の一部を担う大学もあった。公的試験化に向けて大学間の実施条件の均てん化のためには十分な人数の質の高い SP の確保が必要であるが、SP の条件が厳しくなるようであれば、各大学の自助努力だけでは支えきれなくなる。特に、自大学養成模擬患者 (Simulated Patient) が OSCE に参加できないことや身体診察の模擬患者として医学生の参加を認めないとすると、ほとんどの大学で試験が成立しない。OSCE 実施に必要とされる十分な人数の模擬患者の養成と派遣等に格段の配慮をいただきたい。
6. (評価者の確保) OSCE の内部評価者は大学病院に勤務する医師がほとんどである。OSCE の実施による診療業務への影響を避けるため、多くの大学は休日に試験を実施しており、働き方改革に逆行する状況も懸念される。外部評価者についても、その人材の実質は他大学からの医師派遣であるため、大学の負担や時間外業務のさらなる増加を生ずると想定される。評価者について、必要な人材の確保や派遣のための体制整備を要望する。

7. (共用試験の実施にあたる教員・事務職員の確保) 共用試験の実施には、他にも各大学において試験全体をコーディネートする教員や事務職員が必要となる。運営に係る様々な経費等に関する各大学への財政支援を強く要望する。
8. (試験場設備の整備) OSCE の実施には、身体診察、医療面接を行うステーションが課題ごとに必要となり、部屋（ブース）の確保が重要となっている。評価の信頼性向上のためのビデオ録画（複数台）も求められる。ステーション等（モニター室、待機室、管理用モニターシステム等を含む）の整備に必要な財政支援を強く要望する。
9. (OSCE センター) 高い透明性を保った OSCE の実施のためには、全国に複数の「OSCE センター」を設置し、形式、条件を統一化すべきであり、質の高い SP の養成システムも整備が必要である。特に国際標準の 12 課題以上を実施するためには、「OSCE センター」の設置が必須である。
10. (財政支援) 評価者、模擬患者においても自大学での養成も必要であり、国としてこれらの養成や共用試験実施時の旅費や手当および運営に係る様々な経費等に対する財政支援を強く要望する。
11. (共用試験受験困難者への対応) 身体的障がい等により共用試験（特に、OSCE）の受験が困難あるいは不可能な学生に関して、各大学に求められる対応や医師国家試験の受験資格等を含めた対応について検討いただきたい。
12. (情報共有) 各大学においては、共用試験の公的化に関しての具体的情報が不足しており、速やかな検討と具体的な内容の提供を要望する。

以上

懇談会・意見交換会・講演会等

全国医学部長病院長会議では、大学医学部や附属病院での、高度医療人の育成・国民への安全で高度な医療の提供・医学研究の推進・地域医療への貢献など、様々な問題やこれらに関する課題について、協議し相互の理解を深めるとともに意見の統一をはかり、わが国の医学並びに医療の向上に貢献するため、日本医師会・文部科学省・厚生労働省の方々や会員、関係団体と意見交換、懇談会、講演会、説明会等を行っています。

■ 文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会・・・66

- ・第26回 令和3年4月20日(火) 開催
- ・第27回 令和3年8月17日(火) 開催
- ・第28回 令和4年1月7日(金) 開催

■ 医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議―・・・69

- ・令和3年4月8日(木) 開催
- ・令和3年10月14日(木) 開催

■ 地域枠制度についての意見交換会・・・73

- ・令和4年3月5日(土) 開催

第26回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会

第26回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会 次第

開催日時：令和3年4月20日(火) 13:00～15:00

開催方法：WEB（ZOOM）会議

- 議 題： 1. 新型コロナウイルス感染症対策について（資料1-1～1-4、資料2）
2. 共用試験の法制化について（資料3）
3. 医師の働き方改革について（資料4）
4. その他

資 料：

- 資料1-1 大学病院の経営状況調査（12月度）
- 資料1-2 緊急包括支援交付金等の受給状況（2月末現在）
- 資料1-3 通常診療への影響調査結果
- 資料1-4 新型コロナウイルス重症症例診療を担う医療施設に関する見解
- 資料2 第3回各大学における新型コロナウイルスへの対応に関するアンケート結果
- 資料3 共用試験公的化の懸念事項
- 資料4 医師の働き方改革に関する課題と要望（案）
- 資料5 第26回三者懇談会出席者名簿

第27回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会

第27回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会 次第

開催日時：令和3年8月17日(火) 15:30～17:30

開催方法：WEB（ZOOM）会議

議 題：1. 共用試験の公的化について（資料1・資料2）
2. 地域医療計画と医師確保計画について（資料3）
3. その他

資 料：

- 資料1 今回の医師法改正の狙いについて（厚生労働省）
- 資料2 共用試験検討委員会における厚生労働省との意見交換内容（AJMC）
- 資料3 医療計画及び医師確保計画について（厚生労働省）
- 資料4 第27回三者懇談会出席者名簿

第28回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会

第28回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会 次第

開催日時：令和4年1月7日(金) 14:00～16:00

開催方法：WEB（ZOOM）会議

- 議 題：
1. 共用試験の公的化について
 2. キャリア形成プログラム運用指針の改正について
 3. 令和4年度予算案の概要について
 4. 令和2・3年個人情報保護法の改正を受けた生命・医学系指針の見直しについて
(文部科学省研究振興局ライフサイエンス課)
 5. その他

資 料：

- 資料1 共用試験の公的化について
- 資料2-1 「共用試験の公的化に向けた論点」についてのアンケート結果（概要）
- 資料2-2 「共用試験の公的化に向けた論点」についてのアンケート結果
- 資料3 キャリア形成プログラム運用指針の改正について
- 資料4-1 医学部地域枠、学生へムチ「違約金」最大842万円 人権侵害の声も
(朝日新聞デジタル記事)
- 資料4-2 地域枠入学者への卒前支援体制
- 資料5-1 厚生労働省 令和4年度予算のポイント
- 資料5-2 令和4年度予算案の概要
- 資料5-3 医政局 令和4年度予算案の概要
- 資料5-4 新型コロナウイルス感染症に対応する医療機関等への支援策（主なもの）
- 資料5-5 令和4年度 予算案の概要（厚生労働省医政局）
- 資料6 文部科学省 令和4年度予算案の概要について
- 資料7 令和2・3年個人情報保護法の改正を受けた生命・医学系指針の見直しについて
- 資料8 第28回三者懇談会出席者名簿

医療に関する懇談会

医療に関する懇談会
—日本医師会・全国医学部長病院長会議—
次 第

令和3年4月8日(木)
16:00~17:30
WEB会議(日医内は501-502会議室)

司 会 日本医師会 橋本常任理事

1. 開会・挨拶

- ・中川 俊男 日本医師会会長
- ・湯澤 由紀夫 全国医学部長病院長会議会長

2. 議題

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

【資料3・4】(JMA/AJMC)

- (2) 医師の働き方改革について

【資料5・6】(AJMC/JMA)

3. 閉会

猪口 雄二 日本医師会副会長

医療に関する懇談会
—日本医師会・全国医学部長病院長会議—
資料目録

令和3年4月8日(木)

1. 議事次第
2. 出席者名簿
- 3-1. 新型コロナウイルス感染症患者の病床確保等に向けた具体的方策 (JMA)
- 3-2. 地域の医師・看護師等の派遣、地域の医療機関での患者受入策 (JMA)
- 3-3. 今後の感染拡大に備えた新型コロナウイルス感染症の医療提供体制整備について (3/24付け厚生労働省事務連絡) (JMA)
- 4-1. 新型コロナウイルス感染症に関する大学病院の経営状況調査 (12月度) (AJMC)
- 4-2. 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ協力について (AJMC)
- 4-3. 通常診療への影響調査結果 (AJMC)
- 4-4. 新型コロナウイルス重症症例診療を担う医療施設に関する見解 (AJMC)
5. 医師の働き方改革について～大学病院の取組について～ (AJMC)
6. 医師の働き方改革について (評価機能の仕組み他) (JMA)

<凡例>

JMA：日本医師会提出資料

AJMC：全国医学部長病院長会議提出資料

医療に関する懇談会
—日本医師会・全国医学部長病院長会議—
次 第

令和3年10月14日(木)
15:00~17:00
WEB会議(日医内 小講堂)

司 会 日本医師会 橋本常任理事

1. 開会・挨拶

- ・中川 俊男 日本医師会会長
- ・湯澤 由紀夫 全国医学部長病院長会議会長

2. 議題(資料提出者)

- (1) 日本医師会女性医師支援センターの制作物について 【資料3】(JMA)
- (2) 地域医療について 【資料4】(AJMC/JMA)
- (3) 医師の働き方改革について 【資料5】(JMA)
- (4) 新型コロナウイルス感染症への対応について 【資料6】(AJMC)

3. 閉会

猪口 雄二 日本医師会副会長

医療に関する懇談会
—日本医師会・全国医学部長病院長会議—
資料目録

令和3年10月14日(木)

1. 議事次第
2. 出席者名簿
- 3-1. 日本医師会女性医師支援センターから (JMA)
- 3-2. 医師の多様な働き方を支えるハンドブック (冊子事前送付) (JMA)
- 4-1. 安定した地域医療体制の実現を目指して (AJMC)
- 4-2. 第1回外来機能報告等に関するワーキンググループ資料 (令和3年7月7日) (抜粋) (JMA)
5. 医師の働き方改革に関する国の委託事業について (JMA)
6. 新型コロナウイルス感染症への対応 (2020年度) (AJMC)

<凡例>

JMA：日本医師会提出資料

AJMC：全国医学部長病院長会議提出資料

地域枠制度についての意見交換会

全国医学部長病院長会議 地域における医師養成の在り方に関する委員会
地域枠制度についての意見交換会（オンライン）プログラム

●趣 旨

地域枠制度等の地域医療に関する最新の話題を共有し、都道府県、大学、地域医療支援センターの関係者間の相互理解を深める。

●日 時

2022年3月5日(土) 9:30～12:30

●開催方法

オンライン（Zoomウェビナー）

●主な参加者

- ・各都道府県の地域医療担当者
- ・各都道府県の地域医療支援センター担当者
- ・各都道府県の大学の地域医療関連講座代表者
- ・厚生労働省医政局医事課担当者
- ・文部科学省高等教育局医学教育課担当者
- ・全国医学部長病院長会議（委員長、委員、事務局）

●内 容

9:30	開 会	1. 委員長挨拶（5分） 地域における医師養成の在り方に関する委員会 委員長 大屋 祐輔（琉球大学病院長）	
9:35	講 演 (87分)	2. 令和2年度調査の概要（15分） 前田 隆浩 委員（長崎大学総合診療科教授）	資料1
		3. 自大学の取り組み（各7分） テーマA 井口 清太郎 委員（新潟大学新潟地域医療学講座特任教授）	資料2
9:50		阿波谷 敏英 委員（高知大学家庭医療学講座教授）	資料3
9:57		テーマB 長谷川 仁志 委員（秋田大学医学教育学教授）	資料4
10:04		大脇 哲洋 委員（鹿児島大学地域医療学教授）	資料5
10:11		テーマC 前田 隆浩 委員（長崎大学総合診療科教授）	資料6
10:18		小谷 和彦 オブザーバー（自治医科大学地域医療学部門教授）	資料7
10:25		4. 文部科学省ご担当者による講演（15分） 文部科学省高等教育局医学教育課 小松崎 靖隆 様	資料8
10:32		5. 厚生労働省ご担当者による講演（15分） 厚生労働省医政局医事課 野口 裕輔 様	資料9
10:47			
11:02	休憩（8分）		
11:10	総合討論 (75分)	テーマA 「大学と行政との連携によるキャリア形成プログラムの構築」 [座長] 阿波谷 敏英（高知大学）、井口 清太郎（新潟大学）	
11:35		テーマB 「恒久定員に地域枠定員を含めることになった場合の留意点」 [座長] 長谷川 仁志（秋田大学）、大脇 哲洋（鹿児島大学）	
12:00		テーマC 「地域枠制度を学生・卒業医師・住民・行政が納得できる制度にするための工夫」 [座長] 前田 隆浩（長崎大学）、小谷 和彦（自治医科大学）	

12：25	総 括	大屋委員長
12：30	閉 会	

※ これまでの報告書につきましては、下記URLをご参照下さい。
<https://ajmc.jp/activities/result/area-committee/>



文部科学省 医学教育等関係業務功労者表彰式



文部科学省は、国立・公立・私立大学における医学並びに歯学に関する教育、研究若しくは大学病院の患者診療等の補助的業務に関して、顕著な功労のあった方々を表彰することにより、関係職員の士気を高揚し、さらに医学教育又は歯学教育の充実向上を図ることを目的として、文部科学大臣の表彰を行っており、今年は12月16日にオンライン開催により104名が受賞された。表彰式には本会議の会長が出席し、祝辞を述べた。

《 祝 辞 》

皆様、本日は誠にありがとうございます。この医学教育等関係業務功労者表彰は昭和49年から始められた歴史と伝統のある表彰で、日本における医学・歯学教育をよりよくするために文部科学省が力を注いでこられた事業であると伺っております。

全国82の医学部・医科大学の学長、医学部長ならびに付属病院長で組織しております全国医学部長病院長会議を代表して、令和3年度の表彰に際しまして、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

本日、ここにお集まりの皆様方は、国公立大学において医学・歯学系の大学における教育、研究、診療に長年にわたり従事され、顕著なご業績のあった方々であり、その功労を称え表彰を受けられま

した。医学教育に携わるものとして、心からお祝いを申し上げるとともに、これまでのご苦勞とご尽力に感謝と御礼を申し上げる次第です。

医学・歯学の領域において、質の高い、心豊かな良き医療人を育成することが、私どもの社会的使命であり責任です。医学・歯学教育は人材育成を通じて医療・医学を支え、さらに将来に向け生命科学の発展に貢献するものです。その教育成果は社会に還元され、国民の健康を守る重要な役割を担っていることは、改めて申し上げるまでもありません。

全国医学部長病院長会議は、これまでにこの課題に対して様々な取り組みをしてまいりました。

本日表彰される皆様におかれましては、長年職場での業務を行うと同時に、医学部・歯学部学生、研修医、専攻医のご指導にもご尽力いただき、医学教育の質保証に大いに貢献いただきました。心より御礼申し上げます。

大学病院は、高度な先端医療は勿論、地域医療にもその貢献が求められています。病院における診療の質保証、世界標準の質の高い医療を提供し、チーム医療により、医療安全に注力しながら、患者中心の医療を実践することが求められています。

国難ともいえるべき新型コロナウイルス感染症に対しましても、大学病院は重症患者の受け入れは勿論、ワクチン接種も含め、全力で対応しています。

良き医療人が多数育ち、国民に安全で高度な医療が提供できていますのも、皆様方が、それぞれの分野でお仕事に精励され、支えていただいたおかげだと感謝を致しております。

本日の表彰式を開催していただきました文部科学省の関係各位に全国の医学・歯学系大学を代表して御礼申し上げます。

最後に皆様方には、本日の意義深い表彰を契機として、今後もお一層のご精進をいただきますとともに、医育機関、大学の更なる発展を通じ、国民の健康・福祉にご尽力いただきますようお願い申し上げます、祝辞とさせていただきます。

令和3年12月16日 全国医学部長病院長会議 会長 湯澤 由紀夫



プレスリリース (令和3年4月～令和4年3月)

※本会議ホームページよりダウンロードできます。

<https://ajmc.jp>

◇令和3年4月2日(金)

プレスリリース

テーマ：1. 新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査（12月度）について
2. 新型コロナウイルス感染症に伴う通常診療への影響調査結果について

資料：以下HP参照

- ・ 新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査（12月度）
- ・ 新型コロナウイルス感染症に伴う通常診療への影響調査結果

◇令和3年4月28日(水)

プレスリリース

テーマ：1. 新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査（1月度）について
2. 新型コロナウイルス感染症に関する緊急包括支援交付金等の受給状況（2月末現在）

資料：以下HP参照

- ・ 新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査（1月度）
- ・ 新型コロナウイルス感染症に関する緊急包括支援交付金等の受給状況（2月末現在）

◇令和3年6月1日(火)

プレスリリース

テーマ：1. 新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査（2月度）について
2. 新型コロナウイルス感染症に関する緊急包括支援交付金等の受給状況（3月末現在）

資料：以下HP参照

- ・ 新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査（2月度）
- ・ 新型コロナウイルス感染症に関する緊急包括支援交付金等の受給状況（3月末現在）

◇令和3年6月22日(火)

プレスリリース

テーマ：新型コロナウイルス感染症に関する大学病院の経営状況調査（3月度）について

配付資料：以下HP参照

- ・新型コロナウイルス感染症に関する病院経営状況調査（3月度）

◇令和3年11月16日(火)

プレスリリース

テーマ：新型コロナウイルス感染症が大学病院経営に与えた影響（2020年度）

配付資料：以下HP参照

- ・新型コロナウイルス感染症が大学病院経営に与えた影響（2020年度）

東京医科歯科大学

(国立大学)

東京医科歯科大学 医学部長 北川 昌伸

東京医科歯科大学医学部は、1944年に東京高等歯科医学校に医学科が新設されて東京医学歯学専門学校となったことにより誕生しました。その後、1954年国立大学設置法により新制東京医科歯科大学が設置され、1955年には新制大学院も発足して新制大学医学部としての体制が整いました。1959年にはお茶の水の地（湯島地区）に医学部附属病院や研究棟の整備が行われ、1973年には難治疾患研究所が設置されました。その後、湯島地区と神田川を挟んで対岸に存在する駿河台地区において数多くの増改築が行われ、現在に至っています。中でも2008年に竣工されたM&Dタワー（医歯学総合研究棟Ⅱ期棟）は医歯学総合研究科の教育研究拠点となるべく建設された超高層校舎で、研究室、実験室、講堂（500名収容の鈴木章夫記念講堂を含む）、医歯学メディアセンター（図書館）などの機能を持つ国立大学法人の中でも最も高い建築物となっています（125.95m）。また現在、東京医科歯科大学病院の機能を効率的に医療現場に生かすために、「機能強化棟」の建設工事もスタートしており、臨床面での医学教育においても更なる発展が期待されます。

東京医科歯科大学は2020年に第4期中期目標期間（2022年度～）における指定国立大学法人の指定を受けました。指定国立大学法人制度は日本の大学における教育研究水準の著しい向上とイノベーション創出を図るために制定されたもので、本学では「世代を超えた人類のトータル・ヘルスケア」のモデルを社会に提示することを目指しています。医学部としても総力をあげて



M&Dタワー（医歯学総合研究棟Ⅱ期棟）

研究力強化を行うとともに、Clinician ScientistやMedical Data Scientistなどの育成にも注力し、大学全体が世界屈指の医療系総合大学となるよう邁進するつもりです。

特色ある取り組みとしては、チリ共和国チリ大学ならびにタイ王国マヒドン大学と国際連携医学系専攻（ジョイント・ディグリープログラム：JDP）を、外科系分野を中心に開設しています。両国ならびに世界で進む高齢化社会における医療問題、特にがん治療において国際理解を深めた幅広い知識を有する高度医療人材の育成を目指しています。

また、医学医療の分野で、グローバルな視野で様々な形でリーダーとして活躍する人材の育成のために、完全英語履修のHealth Sciences Leadership Programを2013年度に開講しました。医学科を中心に様々な学科専攻から応募し選考された有志が、リーダーに必要なソフトスキルや視野・視点を獲得・洗練し、さらにアラムナイも含めお互いを刺激・鼓舞しあい成長するコミュニティが形成されてきています。

東京医科歯科大学病院 病院長 内田 信一

当院は、2021年10月1日医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し、東京医科歯科大学病院となりました。医学部附属病院は1944年に設立された東京医学歯学専門学校附属医院を起源とし、歯学部附属病院は1916年に設立（正しくは、医術開業試験附属病院より分離）された歯科医術開業試験附属病院を起源としておりましたが、77年を経て一体化する事になりました。その原動力は、組織の効率化と言った面もありましたが、何よりめまぐるしくかわる社会環境にに応じて、医療系総合大学の附属病院として社会に貢献するため、より良い形を模索したことにあります。よって、新たな病院の理念は、「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する」であります。基本方針としては、1. 患者中心の良質な全人的医療の提供、2. 人間性豊かな医療人の育成、3. 高度先進医療の開発と実践、4. 人々の信頼に応える社会に開かれた病院、であります。トータル・ヘルスケアとは、単に医と歯の融合のみならず、医療やその周辺領域までも含めて、社会の人々の幸福に貢献する事も目指しています。

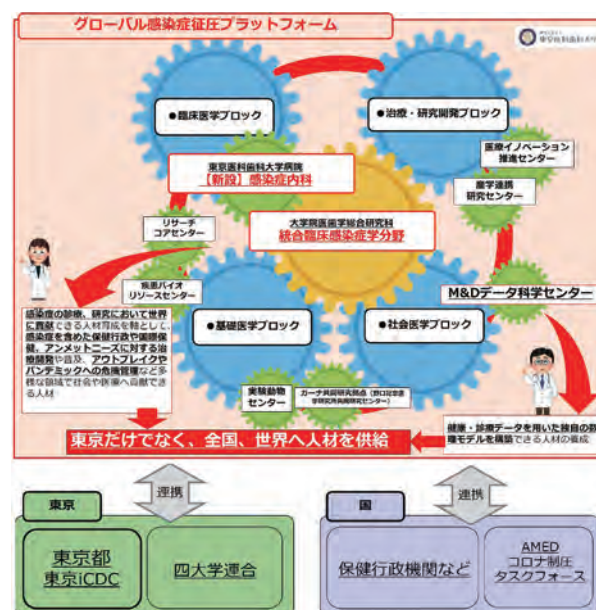
一体化により本院は、病床数813床となり、医師・歯科医師814名、看護師・助産師・看護補助者1,128名、563名の医療技術系職員（薬剤師・管理栄養士・診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士・理学療法士・歯科衛生士・歯科技工士等）、390名の事務職員からなる組織となりました。現在は一体化前と同様に医科・歯科、各々の病院の建物で診療を行っていますが少しずつ融合も進めており、本格的な融合（一体化）は、現在建設中の機能強化棟が2023年3月に完成し、それに引き続く現在の病棟の改修が進む段階で達成されていく予定です。機能強化棟は免震構造を備え、救急、ICU、ハイブリッドオ



機能強化棟の完成イメージ

ペ室等が入る予定で、高度先進医療に対応するだけでなく、災害拠点病院としてのインフラもさらに整えていけると思っています。

また、2020年以降のコロナ禍では、第1波から積極的にコロナ陽性患者を受け入れてきました。ECMOを複数台同時に回せる重症患者の最後の砦として、都内でもトップクラスの貢献が出来たものと思っています。2021年10月には病院に新たに感染症内科も新設され（大学院としては統合臨床感染症学分野）、グローバル感染症征圧プラットフォーム構想のもと（図参照）、引き続きいつ終わるとも見えないコロナ対応ではありますが、しばらくはコロナと一般診療の両立を目指して頑張っていきたいと思っています。



グローバル感染症征圧プラットフォーム構想

日本医科大学

(私立大学)

日本医科大学 医学部長 弦間 昭彦

日本医科大学は、長谷川泰により創設された済生学舎を前身とし、140年を超える歴史を有します。済生学舎は、明治維新から間もない明治9（1876）年医師の早期育成を目的として設立され、多くの地域医療に貢献した医療人や世界的な医学研究者を輩出しました。大正15（1926）年、日本医科大学は、医科大学として認可されています。現在、キャンパスは、文京区千駄木に教育棟、基礎医学大学院棟、中央図書館をはじめとする施設、武蔵境に合同教育施設E棟、千葉北総キャンパスに大学院（法医学）棟、研究施設、総合運動施設などを有しています。また、臨床研修の場として、付属病院（千駄木）、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院の4病院と健診医療センター、腎クリニック、成田国際空港クリニック、呼吸ケアクリニックの各施設を用意し、先端医療の教育を行っています。詳細は、病院より紹介があると思いますが、千駄木の付属病院が完成するとともに、武蔵小杉病院の建設が終了し、最新の医療環境での学修が可能となりました。

現在、日本医科大学では、新テクノロジーによる革命と創造を謳って、多くの変革を行なっています。まず、教育面では、これらの新技術による未来型医学教育を進めてきました。その結果、GPAに応じた特別カリキュラム、持ち上がり制度など、学修状況による「個別化教育の

推進」と旧来の臨床実習と一線を画した「系統的網羅的な臨床実習の構築」が可能になりました。また、数理データサイエンス・AIなどの教育センターの設立など、学びの機会を設ける一方で、「愛と研究心」文庫など、Humanity教育を念頭に置いた整備を行なっています。パンデミック3年目、世界は大きく変わろうとしています。国際的にブランド力のある大学がWebコンテンツの発信などを強め、他の大学に影響が見え始めています。医学部への影響は少ないと想定されますが、世界の教育の未来を見据えた対応が望まれています。コロナ感染状況下で整備されたヴァーチャルリアリティー（VR）や非接触型面談システムなどを次なる時代の新たな補助ツールとして再評価するプランを進めています。また、学内研究費競争や他大学との連携の強化を図るとともに、国際的指標を重視した研究状況の分析など、研究情報センター化された図書館、臨床研究や、シーズの発掘などの部門を整備した法人研究統括センター、設備の共同利用などを進めている付置施設化した共同研究施設などを中心に、研究面での新たな展開が進められつつあります。



VRを用いた救命救急講義

日本医科大学付属病院 病院長 汲田 伸一郎

文京区千駄木に位置する日本医科大学付属病院は、1910年に日本医学校付属病院として開設され、1963年に日本医科大学付属病院と改称されました。1977年に厚生省認可第一号救急救命センターを設置、1993年には高度救命救急センターに指定（厚生省認可第一号）されました。さらに1993年に特定機能病院承認、2008年には地域がん診療連携拠点病院に指定されており、あらゆる分野において時代に応じた良質な高度先進医療の提供を行っております。

2011年には老朽化した付属病院本館の改築工事を開始し、2018年1月に地下3階～地上12階の付属病院本館がリニューアルオープンいたしました。本邦最大級60床の高度救命救急センターに救急・総合診療センターを加え、24時間体制の救急部門が完成いたしました。屋上にはヘリポートも装備しており、災害時医療への対応も可能となりました。またハイブリッド型手術室を含めた22室の高機能手術室や各種検査部門も大幅に拡充しました。

2021年12月には本館の外構工事も完了し、1階中央玄関前はタクシープールを含めたロータリーの他、バスターミナル、177台収容の機械式地下駐車場も完備いたしました。バスターミナルには、付属病院と近隣駅を結ぶ無料送迎バス、関連病院とを結ぶ無料送迎バスの他、文京区のコミュニティバスの運用も開始し、当院へのアクセスが著しく向上しました。

さて原稿を書いている現在（2022年1月）、未だ本邦のCOVID-19感染症は収束に至っていない状況ではありますが、当院でもCOVID-19対応に全力で取り組んでいます。重症例は高度救



付属病院外観（緑地側）

命救急センターにおける入院加療とし、病床数は都内陽性例の推移、他院・行政からの搬入依頼件数などにより適宜増減し（最高19床にまで増床）、継続的な対応を行ってきました。2021年末までの当院における受け入れ人数は、重症194例、中等症181例と全国でも有数の入院患者数を計上しており、対応してくれている全職員に感謝です。

今後も当院の基本理念である『つくすところ』で、患者さんご家族のための医療の効率化と安全性の追求を推進していきたいと考えております。そして365日24時間体制で、あらゆる患者さんに対しての『断らない病院』を実践していくとともに、高度先進医療の提供を継続し、最新の医療環境の実現を図っていききたいと考えております。



付属病院外観（ロータリー側）

岡山大学

(国立大学)

岡山大学 医学部長 豊岡 伸一

岡山大学医学部は令和2年に記念すべき創立150周年を迎えました。コロナ禍のため1年遅れの令和3年11月3日に創立150周年記念式典を挙げております。

岡山大学医学部は明治3年に岡山藩が設立した岡山藩医学館を起源としています。その後、岡山県医学



創立150周年記念式典の様子

校、第三高等学校医学部、第三高等学校医学部、岡山医学専門学校、岡山医科大学と校名を変えながら、明治、大正、昭和の医学教育研究を支え続けてきました。そして、第二次世界大戦後の昭和24年には新生岡山大学の医学部として新たに出発し、今日に至っています。振り返れば150年の長い歩みの中で、岡山における医学の学び舎は、1万2千名以上の医師・研究者を含む多くの医療人を輩出してきました。さらに、国内では中国四国地方を中心に、近畿西部地域にわたる幅広いホスピタルパートナーシップを構築して、地域社会に貢献し、同時に国際社会において活躍する、医療人・研究者の育成にも力を入れてきました。現在、医学部、歯学部、医歯薬学総合研究科、そして病院がある鹿田キャンパスは新しい医療を創出・実施する革新的医療技術創出拠点に選定されていることもあり、より良い研究、診療、そして人材育成に教職員並びに学生も一緒になって取り組んでいます。

岡山大学医学部には医学科と保健学科があります。医学科の特徴としては、早期体験実習か

ら少人数ベクトルサイド教育など、伝統と経験から最適化された様々な実習により実践力を養います。また、医学科在学中から大学院科目等の履修ができるなど、先進的な教育プログラムを設け学修者主体の学びを推進しています。保健学科の最近の取り組みとしては、タイ国シーマハサラカム看護大学学生と混成チームを作り、各国の文化やコロナ感染状況などをテーマにオンラインで何度も議論を重ねた成果をプレゼンテーションするなど、コロナ禍でも国際交流が盛んです。

また、令和3年度からの取り組みとして、新しい医療の開発や医療過疎など多くの保健医療分野の課題に対し、人工知能（AI）を用いた解決法をデザインでき、新しい価値を創造する人材養成を目的とした医療AI応用コースを博士課程に設置しました。令和2年以降、予想もしていなかったCOVID-19により日常は一変しました。さらに、情報通信技術の進歩とともに、AIなどの技術の進化はこれからも日常の風景を大きく変えていくことが予想されます。そして、医学研究や医療人育成に期待される姿は、まさに社会状況に応じて変化しています。岡山大学医学部においても様々な社会的要請に応えるべく、次世代を育成する教育研究活動にしっかりと取り組み、我が国の医学、保健医療に貢献する所存です。



創立150周年の記念事業の一環として昭和7年に建築された旧生化学棟の整備改修により一新された講堂

岡山大学病院 病院長 前田 嘉信

岡山大学病院は、1870（明治3）年に岡山藩医学館大病院として開設され、数々の組織改編を経て1917（大正6）年に岡山県病院として現在の鹿田キャンパスの地に移転、そして、現在に至るまで150年を超える長い歴史と伝統を受け継いできました。「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人材を育て、社会・地域の持続的な健康増進に貢献する」ことを理念に掲げ、中国・四国地方を中心に約250施設の関連病院とともに、同地方における医療・保健分野の診療・教育・研究面での「エンジン（原動力）」とも言える重要な役割を果たしてきました。

岡山大学病院は、中国・四国地方で唯一の「橋渡し研究支援施設」および「臨床研究中核病院」として、基礎研究から患者さんに届く治療まで、連続した研究を続けています。産学官連携事業を推進し、分野を横断した研究環境から革新的な医療を生み出すことを通じて、社会・地域の持続的な健康増進に貢献していきます。がんゲノム医療に関しては、ゲノム医療総合推進セン

ターを中心に、腫瘍センター、バイオバンク、臨床遺伝子診療科などが一体となって、がんゲノム医療の発展に取り組んでいます。今後も「がんゲノム医療中核拠点病院」として、個々のがん患者さんへの医療提供のみならず、治験・先進医療を主導し研究開発を進めることにより、がんゲノム医療を牽引する役割を担っていきます。また、優れた医療人材を育てる場として、医療人にも取り巻く社会変化への対応が求められる中、データ駆動型研究や人工知能技術ならびにビッグデータ解析に長けたデジタル化推進人材の発掘と育成に注力していきたいと考えています。

「患者さんのために、保健・医療の発展のために、自己ではなく社会のために」という、変えずにしっかり守っていく「不易」な姿勢と、社会変化に柔軟に対応できる「流行」の能力を携えた医療人材を育成し、地域・世界に輩出していきたいと思っています。これからも職員一丸となって患者さんと社会・地域からの期待に応えられるよう全力で取り組んでいきます。



岡山大学病院外観

川崎医科大学

(私立大学)

川崎医科大学 学長 福永 仁夫

1970年川崎祐宣は開業医として30年間、医療の現場を経験して、「患者や社会のために、われを忘れて医療に尽くす、「良医」を一人でも多く世に送りたい」と考え、本学を開学しました。開学に当たり、建学の理念を「人間（ひと）をつくる 体をつくる 医学をきわめる」と定め、理念の具現化のためには環境を整えることが必要と考えました。その想いは、「太陽・緑・花の溢れる自然環境」、「清新にして近代的な設備環境」、「快適にして協同精神を培う生活環境」、「学識と教育的情熱を備えた教職員による人間環境」を目指すことであり、現在に到るまで継承されています。以下にその一端を紹介します。

1993年本学はOSCEの手法を用いて小外科手術の評価を行っており、2011年にはOSCEのためのスモールルーム10室からなる臨床実習センターを設立しました。その後、学生の臨床実習には様々な改良を加えています。医療技術、スキルの修得や向上を支援するため附属病院の病棟の半分を占める臨床教育研修センターを開設しました。病棟実習室としてスタッフステーション、一般病室、ICU、HCU、陰陽圧室、介助シャワー・水浴室を備えた模擬病棟でトレーニングを行い、多目的演習室として、コミュニケーション、画像・IT技術・e-learning、基本的臨床スキル、救急・蘇生、検査・機器、大規模多目的の各室が整備されており、医学生を始め学園内医療系学生や教職員が年間延べ2万人以上利用しています。

開学時から共同使用ができ、各分野の専属の技術者ら（32名）が研究をサポートする中央研究センターは研究活動の中心です。センターは5つのユニット（医用生物研究、分子細胞生物、バイオイメージング、RI、総合医療センター）からなっています。そこには、センター予算で購入された大型の研究装置が配置されており、多くの研究者からは効率良く研究が可能であると好評です。

本学の創設と同時に、日本で唯一の医科大学附属高校が設立されました。高大連携カリキュラムとして、「ドクターロード」という体験型授業を医科大学が協力して行っています。「メディ

カルスクール・アワー（本学教員による医学・医療の講義）」、「医師へのインタビュー（生徒が医師の職務や患者さんへの対応



MM外観（キャンパスガイド2020）

などを医師に質問）」、「医科大学体験実習（基礎医学教室での体験実習）」、「入学前研修（本学に入学が決定した生徒に、本学教員が大学の授業を紹介）」を行い、附属高校と連携して早期から「良医」を目指す教育を行っています。

1981年創設者は「百聞は一見に如かず」、「百読は一見に如かず」の考えで、「現代の医学と病気が見える健康教育の博物館」として、現代医学教育博物館（Medical Museum（MM）地下1階・地上5階、館員12名）を開館しました（写真）。医療関係者向けには、約1,700点を越える病理肉眼標本を臓器別に展示し、壁面には自学自修のための病理症例問題（CPC）が掲示され、一般者にはからだの仕組みや病気に関する展示、模型標本、体験型教育など健康教育博物館として公開しております。

また、MMは地域貢献の一環として、2009年から毎年8月に小学生～中学生を対象に、「ライフサイエンスのふしぎ」をテーマに「かわさき夏の子ども体験教室」を開催しています。参加者は、保護者・託児幼児を含めて300名以上（2日間）です。医師の講演のほか、災害救助（ドクターヘリの見学）、内視鏡手術のシミュレーション、看護師の仕事などを体験します。これらの体験を通して医療・福祉に関心と将来の学びへのモチベーションを持っていただければと願っています。

国際学術交流は、1977年に創設者が若い教員を友好協定を締結したMinnesota大学に派遣したのが最初です。そして、最新の医学教育・診療を学んで、帰国後その成果を本学に伝えました。その後、2002年からは、英国Oxford大学Green Templeton College（GTC、当時はGreen College）と学術協定を締結し、以後、両大学の学術交流シンポジウムの開催のほか、本学からは24名の教員の派遣と、GTC、Oxford大学からは46名の研究者と学生が本学に来学しております。

現在もこのように、開学時の想いは時空を超えて更に将来も継承されるものと考えています。

川崎医科大学附属病院 病院長 永井 敦

1. 病院の沿革・概要

創設者の川崎祐宣は、1931年に岡山大学を卒業後、1938年に岡山市内で外科医院を開業しました。川崎祐宣は自らの手で心身ともに健全で有能な医師を世に送り出すために医科大学を創立することを決意し、1970年3月に学校法人川崎学園を設立し、同年4月に川崎医科大学の開学に至りました。そして、1973年12月に川崎医科大学附属病院が開設されました。つまり当院は2023年に創立50周年を迎えることになります。

2. 病院の理念

①医療は患者のためにある。②すべての患者に対する深い人間愛を持つ。③24時間いつでも診療を行う。④先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う。⑤地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う。これが当院の理念です。

3. 病院の特徴

当院も特定機能病院として、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発と評価、高度の医療に関する研修、高度な医療安全の確保等が求められています。また、エイズ治療中核拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、高次脳機能障害支援拠点機関、大動脈緊急症拠点病院、災害拠点病院など数々の指定を受け、現在では、高度救



ドクターヘリ



病院全景

命救急センターを擁する1,182床の病院として、その責務を果たしています。

2001年4月には、全国に先駆けてドクターヘリの運用を開始しました。ドクターヘリ発祥の地です。運航開始20年を過ぎた現在まで無事故で8,000回を越えるフライトを達成しています。大規模災害にも有効に活用できる体制も整え、地域の医療に貢献してまいります。

4. 病院の今後

新型コロナウイルス感染症関連では、重点医療機関として指定を受け、現在まで多くの患者を受け入れました。宿泊療養施設におけるリモート診療や、他施設への医療従事者の派遣等協力をして参りました。今後も新たな感染症への対策についても万全の体制を整えます。

2020年4月には初期研修医と後期研修医を対象とした良医育成支援センターを開設しました。卒後医師臨床研修のあり方が大きく変貌し、その時代の波に翻弄されている若手医師を、自らが考えるキャリアイメージに沿うように管理支援する診療支援部門として当院の臨床研修の根幹をなす部門と考えています。

今後も、患者に対する安全・安心な高度の医療サービス、医学生に対する充実した医学教育、そして卒後臨床教育をバランスよく提供できるよう、社会に貢献したいと考えています。

事務局だより

《令和4年～令和5年度開催予定》

●令和4年度4月理事会

日時 令和4年4月28日(木)
13:00～16:30
場所 オルクドール・サロンTOKYO
(オンライン併用)

●令和4年度定例社員総会

日時 令和4年5月27日(金)
12:30～17:30
場所 都市センターホテル
3F コスモス(予定)
(オンライン併用)

●令和4年度11月理事会

日時 令和4年11月25日(金)
13:00～16:00
場所 東京ガーデンパレス
3F 平安(予定)

●令和5年度4月理事会

日時 令和5年4月28日(金)
13:00～16:30
場所 未定

●令和5年度定例社員総会

日時 令和5年5月26日(金)
10:30～17:30
場所 都市センターホテル
3F コスモス(予定)

《お知らせ》

●各種変更届について

■会員、事務担当者の新任・再任・交代や連絡先等の変更

■共用試験合格認定証実務事務担当者の変更

本会議ホームページ(<https://ajmc.jp>) 会員専用ページよりダウンロードいただき、事務局までメール(info@ajmc.jp)にてお送りください。

●医師臨床研修マッチング関連資料について

本会議・会員専用ページよりダウンロードができます。ご意見等がある場合は、事務局までお知らせください。

尚、具体的な内容については下記、医師臨床研修マッチング協議会へご連絡ください。

医師臨床研修マッチング協議会

(TEL) 03-5512-8130

(FAX) 03-3501-6593

●冊子販売について

ご希望の際は、本会議ホームページ(<https://ajmc.jp>)の会員専用ページにて在庫をご確認の上、申込みタブから、事務局へお申込みください。

『令和元年度(2019)医学教育のカリキュラムの現状』・・・定価6,000円

『令和2年度(2020)医学部・医科大学の白書』・・・定価5,000円

※過去の『医学教育のカリキュラムの現状』

『医学部・医科大学の白書』

もございますので、お問い合わせください。

《事務局所在地》

- 〒113-0034 東京都文京区湯島 1- 3-11
お茶の水プラザビル 4 階（会議室 8 階）
- TEL 03-3813-4610
- FAX 03-3813-4660
- （事務局 E-mail）info@ajmc.jp
- （アンケート投稿用 E-mail）quest@ajmc.jp
- （ホームページ）https://ajmc.jp

《事務局スタッフ》

事務局長	櫛山	博
職員	石川	潤
	河井	麻美
	白井	知美
	廣田	真理子
	（令和4年3月31日現在）	

事務局アクセスマップ



発行 令和4年4月

一般社団法人 **全国医学部長病院長会議**

Association of Japan Medical Colleges (AJMC)

〈広報委員会〉

委員長	金 井 隆 典	(慶應義塾大学医学部)
委 員	河 上 裕	(国際医療福祉大学医学部)
委 員	坂 部 貢	(東海大学医学部)
委 員	岩 田 仲 生	(藤田医科大学医学部)
委 員	岩 井 一 宏	(京都大学医学部)
委 員	森 井 英 一	(大阪大学医学部)

〈事務局〉

事務局長 櫛山 博

広報誌担当 廣田真理子

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-3-11 お茶の水プラザビル4階(会議室8階)

TEL 03-3813-4610 FAX 03-3813-4660

(事務局E-mail) info@ajmc.jp (アンケート投稿用E-mail) quest@ajmc.jp

(ホームページ) <https://ajmc.jp>